

# 昭和60年度 遺跡現地説明会資料

1. 舞子古墳群毘沙門2号墳
2. 住吉宮町遺跡（第2次）
3. 楠・荒田町遺跡
4. 郡家遺跡（城の前地区第14次）
5. 西神ニュータウン内55地点遺跡
6. 森北町遺跡
7. 五色塚古墳（整備完成10周年記念）  
——市内の埴輪展——

神戸市教育委員会

## 目 次

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 1. 舞子古墳群毘沙門2号墳                   | 1 頁 |
| 2. 住吉宮町遺跡(第2次)                   | 11  |
| 3. 楠・荒田町遺跡                       | 25  |
| 4. 郡家遺跡(城の前地区第14次)               | 37  |
| 5. 西神ニュータウン内55地点遺跡               | 47  |
| 6. 森北町遺跡                         | 69  |
| 7. 五色塚古墳(整備完成10周年記念)<br>—市内の埴輪展— | 87  |



舞子古墳群  
毘沙門2号墳  
現地説明会資料



昭和 60 年 5 月 3 日

神戸市教育委員会



1. はじめに 舞子古墳群は舞子丘陵に所在する古墳群で、かつては10支群、100基以上の古墳があったといわれていますが、今では多くのものが破壊され約18基を残すのみとなっています。

毘沙門支群は、この内丘陵の頂上付近に位置する6基の古墳から成っています。

今回、調査をした2号墳は昭和47年に東に位置していた1号墳とともに、発掘調査を実施することなく、一夜の内に破壊され、地上からその姿を消していった古墳です。

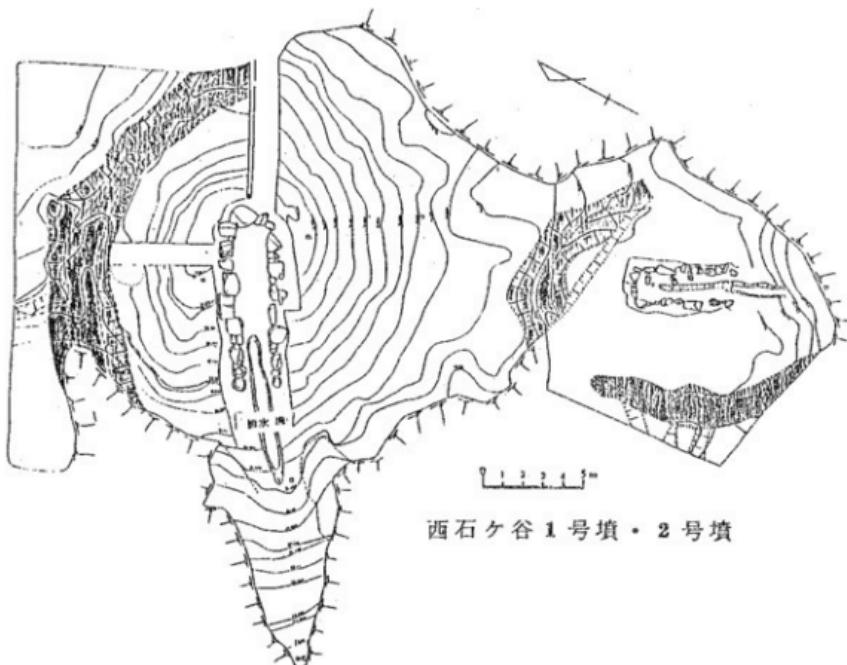


舞子古墳群位置図

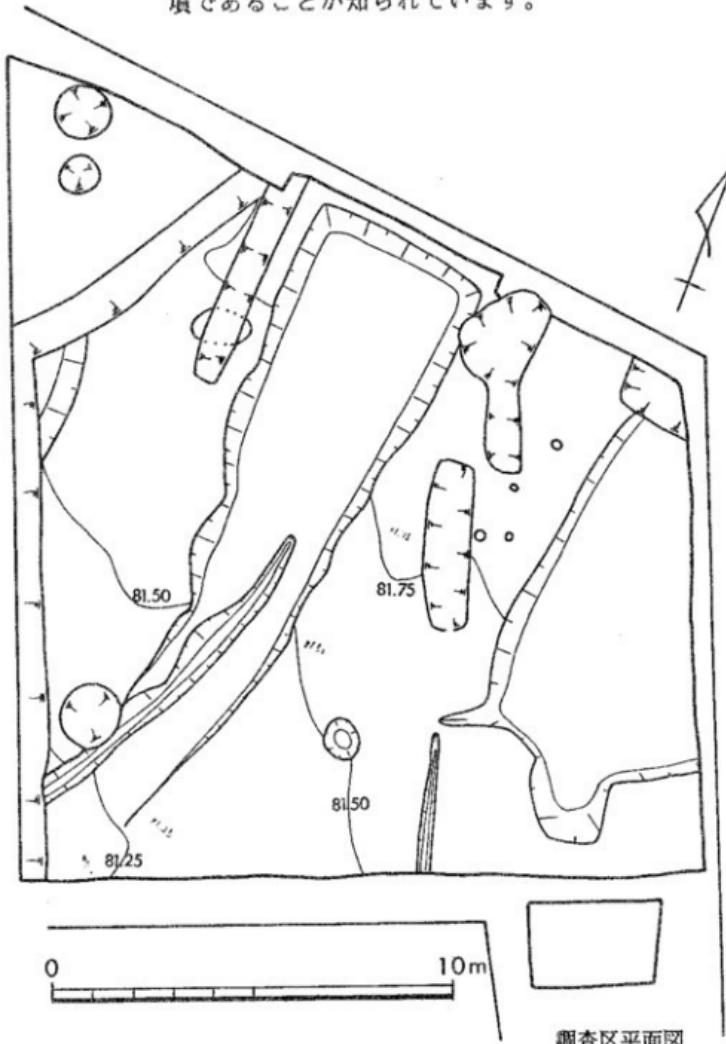
2. 調査の経過 今回の調査は宅地造成が計画され、これに先立って古墳の残存しているかどうかを知るために試掘調査をしたところ、石室の一部と須恵器が出土した。このことから石室の一部が残っていることがわかりましたので、この規模や周辺の遺構を明らかにするため本格的な発掘調査を実施することにしました。

### 3. これまで の調査

現在までに舞子古墳群では尼ヶ谷支群3基・東市ヶ坂支群3基・西石ヶ谷支群6基・東石ヶ谷支群1基、計13基の古墳の調査が行なわれています。また昭和57年に実施された東石ヶ谷1号墳の下から弥生時代後期の竪穴住居址が発見されました。その後、墓園造成工事に先立つ東石ヶ谷遺跡の調査でも、3棟の弥生時代後期の竪穴住居址が発見され、この付近が古墳群になる以前に集落であったことがわかっています。



4. 今回の調査 昆沙門2号墳は舞子丘陵の両方の頂上付近に位置する古墳です。現在は盛土などはまったく残りませんが、昭和46年の記録から直径15メートルほどの円墳であることが知られています。



5. 石室の形と大きさ この古墳は横穴式石室を内蔵する古墳ですが基底近くの一級目の石材が残る程度で遺存は良くありません。また、造成時にブルドーザーなどによって埋められたため残存する石の中には内側に倒れ込んだものもあります。

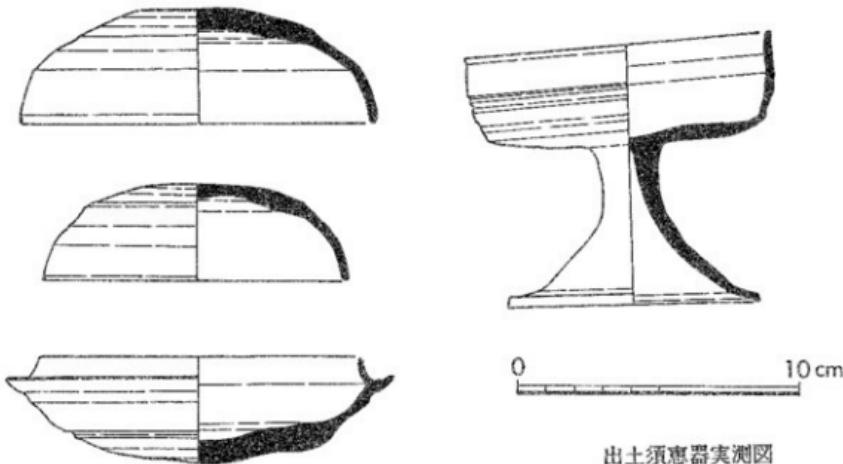
現在に残る石材から知られることは全長9m、玄室幅1.6m、羨道幅1.2mの右片袖式の石室で、淡路島を望むほぼ真南に開口しています。

また、羨道部から外には幅40cm、深さ30cmの排水溝がつけられています。

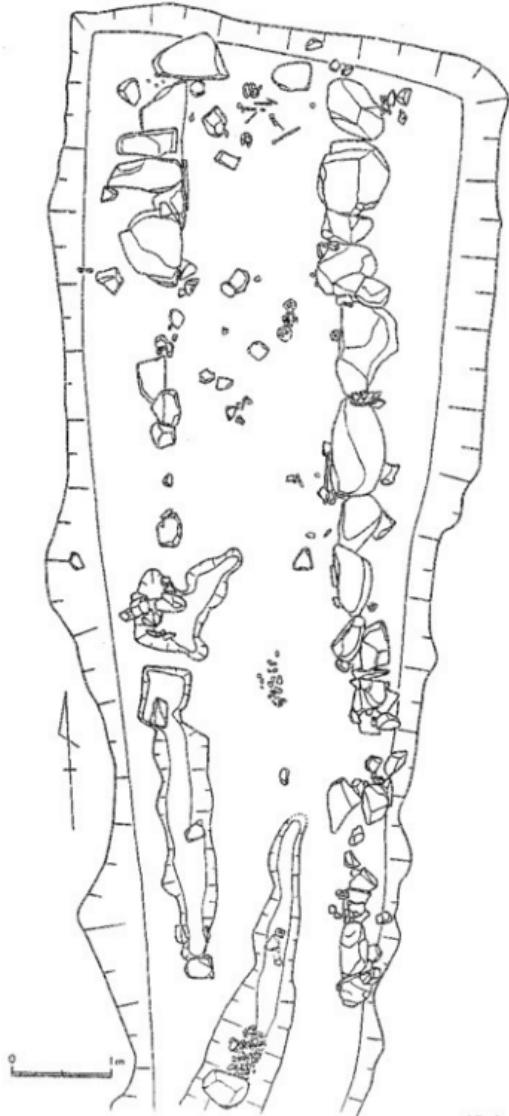
#### 6. 遺物の出土状態

石室内からは須恵器・鉄器・金環などが出土しています。須恵器は奥壁付近で壺1・壺蓋2点、玄室中央付近で壺蓋2・壺底部1・高壺脚1が出土したほか、羨道部・排水溝の上部より小さく碎けた甕・壺などが集中して発見されています。

鉄器は玄室奥壁付近より鉄鐵5本・鉄釘・玄室右・左壁の両壁にそって直刀が1本ずつ出土しています。

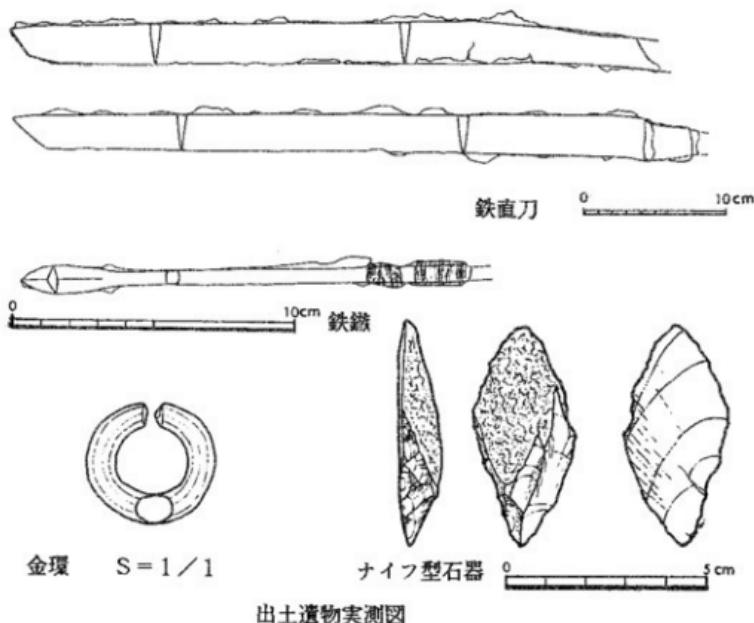


出土須恵器実測図



横穴式石室平面図

7. その他の遺構 現在、調査中のため詳しいことは、わかりませんが弥生時代後期の土壙・溝などが発見されています。また、この中からは弥生土器にまじって先土器時代のナイフ形石器も見つかっています。



出土遺物実測図

8. まとめ 今回の調査では、すでに造成により破壊され、地上より消滅した古墳が、工事後も地下に保存されていたことを確認できました。

また、石室の規模や形態を明らかにすことができましたし、弥生時代の高地集落が、かなりの範囲に広がっていることもわかりました。

これらの成果から毘沙門2号墳は6世紀後半に築かれた直径15 mほどの円墳で右片袖の横穴式石室を内蔵していたことがわかりました。

糸子古墳群古墳分布図

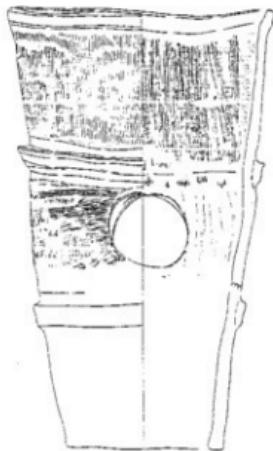






住吉宮町遺跡

第2次調査現地説明会資料



昭和 60 年 9 月 8 日

神戸市教育委員会

今回の発掘調査を実施するにあたっては、積水ハウス㈱・㈱錢高組の協力を得ています。

また、神戸市文化財専門委員 野地脩左、小林行雄、榎上重光の諸先生方に御指導をいただきました。

表紙説明：3号墳出土の円筒埴輪

## 1 位置と環境

住吉宮町遺跡は、神戸市東灘区住吉宮町7丁目に所在し、住吉川と石屋川によって形成された扇状地の標高約20mのところに位置しています。



住吉宮町遺跡の位置(S=1/5000)

### 周辺の遺跡

住吉宮町遺跡の西方約500mには、郡家遺跡が存在しています。

郡家遺跡は、東灘区御影町から御影中町にかけてひろがっていると考えられる遺跡で、弥生時代から鎌倉時代までの遺物や構造が発見されている複合遺跡です。

郡家遺跡の大蔵地区では、奈良時代の掘立柱建物址が検出されており、菟原郡衙と推定されています。

また、南方約1kmの住吉宮町1丁目には、前方後円墳である東求女塚古墳（全長約80m）が存在し、その西方約1.5kmの東灘区御影塚町2丁目には、前方後方墳である処女塚古墳（全長70m）があります。

北東約500mの住吉町坊ヶ塚には、坊ヶ塚古墳（前方後円墳全長40m）が存在していたと伝えられています。



周辺の遺跡(S=1/25000)

- |           |         |            |
|-----------|---------|------------|
| 1 住吉宮町遺跡  | 2 郡家遺跡  | 3 湧ヶ森銅鐸出土地 |
| 4 赤塚山遺跡   | 5 荒神山遺跡 |            |
| A 処女塚     | B 東求女塚  | C 坊ヶ塚      |
| D 鴨子ヶ原群集墳 | E ヘボソ塚  |            |

住吉川上流には、渦ヶ森銅鐸出土地（渦森台1丁目）をはじめ、荒神山遺跡（住吉台）、赤塚山遺跡（住吉山手7丁目）など、弥生時代中期～後期の遺跡がありました。

鴨子ヶ原周辺には、古墳時代後期の鴨子ヶ原群集墳が存在していました。

石屋川の上流には、銅鐸14口と銅戈 7口が出土した桜ヶ丘遺跡（瀬区高羽）、旧石器時代の有茎尖頭器や平安時代の経塚・火葬墓などを検出した滝ノ奥遺跡などがあります。

近年、周辺では、市街地の再開発が進み、道路建設工事やマンション建設工事に先駆けた発掘調査で、今まで知られていなかった遺跡が発見されるようになってきました。

住吉宮町遺跡もこうした工事によって偶然発見された遺跡です。

## 2 調査に至る経過

住吉宮町遺跡  
第1次調査

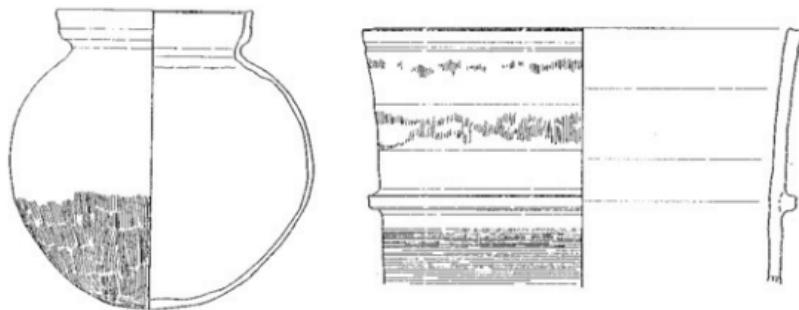
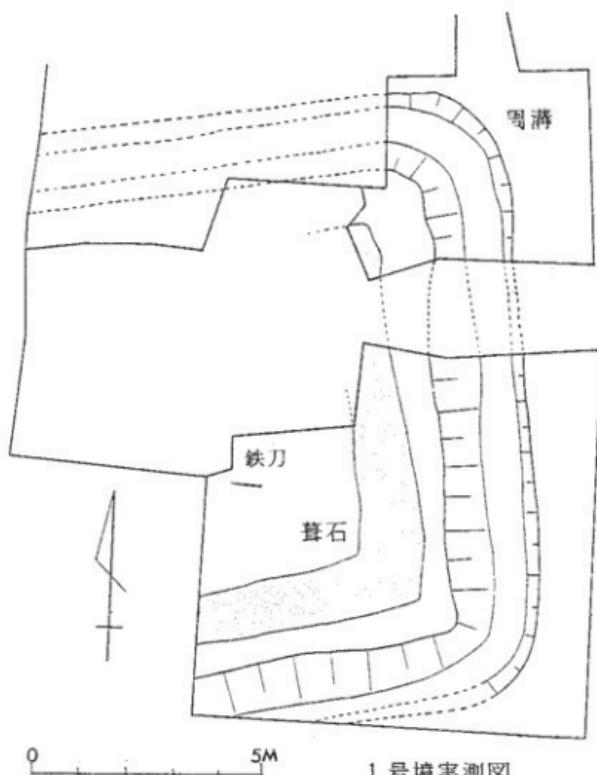
昭和60年6月14日、住吉宮町7丁目のマンション建設工事現場で、中世の土壙・土器が発見されました。そのため、建物によって遺構が破壊される部分（約500m<sup>2</sup>）について発掘調査を実施しました。これが、住吉宮町遺跡の第1次調査で、現在の調査区（第2次調査区）のすぐ東側の敷地です。

第1次調査区では、古墳時代後期の方墳4基のほか古墳時代終わりごろの土壙・ピットなどや鎌倉時代の土壙が検出されました。また、弥生時代後期の土器も出土しています。

今回の発掘調査（第2次調査）は、マンション建設工事に先立って、8月19日から実施しています。

調査範囲は、建物建設に伴って遺構が破壊される部分（300m<sup>2</sup>）だけです。

住吉宮町遺跡  
第2次調査



1号墳周溝出土の土師器壺形土器と円筒埴輪 S=1/4

### 3 調査の概要

今回の2次調査では、大きく別けて3時期の遺構・遺物が発見されています。

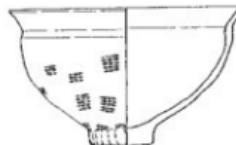
#### 弥生時代

弥生時代の終わりごろ(今から約1,700年前ごろ)

調査地区全面の地表下約2mで遺物包含層と呼んでいる弥生土器が多く含む黒色の粘りけのある土層を検出しました。

この層から出土した遺物には、甕形土器・壺形土器・鉢形土器・高環形土器などの弥生土器があります。

遺構は、少なく直径1.5m、深さ0.5mの土壙が1基あるだけです。



弥生時代終わり頃の鉢形土器

S = 1/4

#### 古墳時代

古墳時代後期初めごろ(今から約1,500年前ごろ)

狭い調査区の中で合計6基の小型の古墳を発見しました。

#### 3号墳

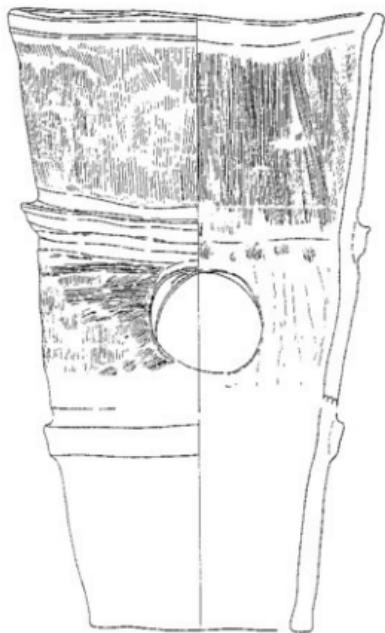
南西の隅部しか発見できませんでしたが、1辺が約13mと推定される方墳で、周溝が巡っています。

墳丘は、2段に積み上げられており、それぞれの斜面には、2~4石を並べた葺石があります。

また、小段には、3本の円筒埴輪が1.4mの間隔で発見されました。真中の1本は、割れていますが、埴輪が古墳にたてられた当時の姿をそのまま残していました。

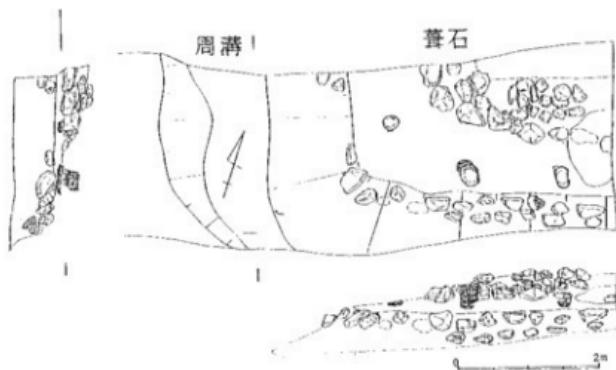
立ったまま出土した円筒埴輪の大きさは、口径が約26cm、高さ約40~45cmで、円形のすかしを2ヶ所にいれています。

小段——小段とは、斜面と斜面の間にある平らな部分を云う。



3号墳の円筒埴輪

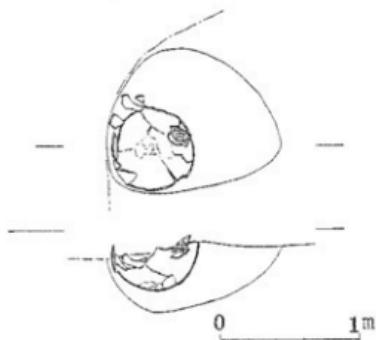
0 10cm



3号墳実測図

#### 4号墳

1辺約6mの方墳で周溝が巡っています。古墳のほぼ中央には、須恵器の壺形土器が埋められていました。



4号墳須恵器出土状況

#### 5号墳

南北方向の周溝の外側を検出ただけで、詳しいことはわかりませんが、1辺8.5mの方墳であろうと推定されます。

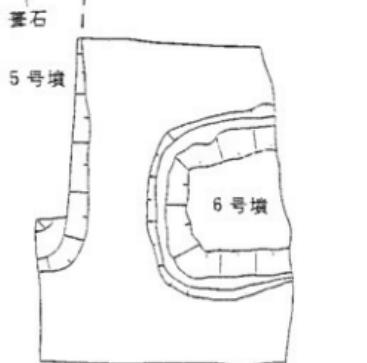
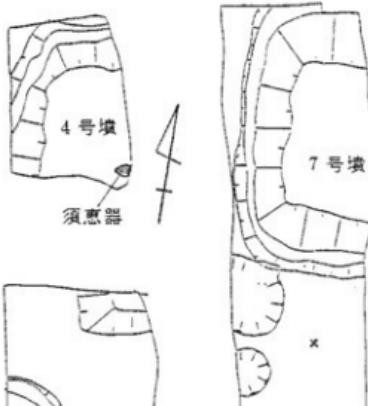
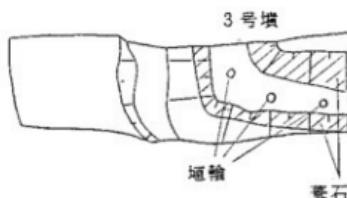
葺石は、周溝底から少し墳丘側へ上がった所で2石を検出ただけです。

#### 6号墳

1辺3.2mの方墳で、浅い周溝が巡っています。大きさが非常に小さいのが特徴的です。

#### 7号墳

1辺6.5mの方墳で周溝が巡っています。周溝の外から須恵器の壺蓋が1個体出土しています。



0 10m

第2次調査地区古墳配置図

8号墳 東西方向の周溝を検出したが、隅部が未調査区域に存在しているため、規模は不明です。

墳丘のほぼ中央部と思われる所から須恵器の有蓋高环形土器2個体と鍼1個体が一括で出土しています。

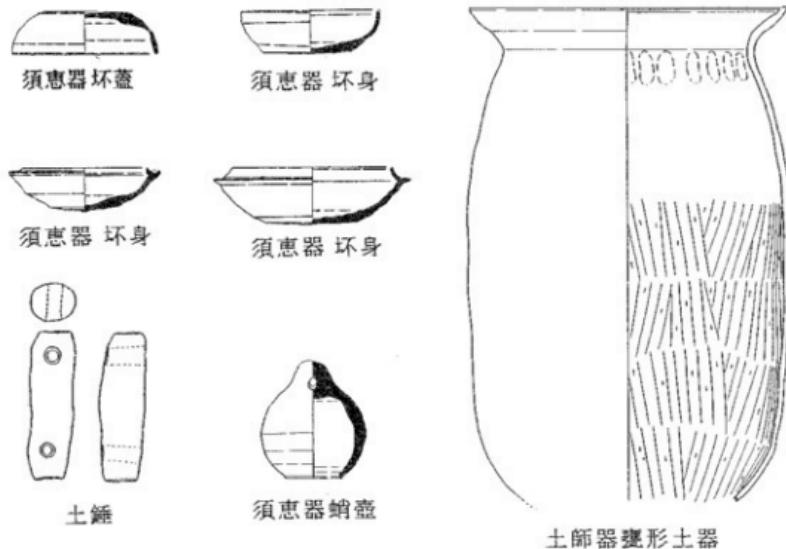
住吉宮町遺跡発見の古墳一覧表(9/7現在)

| 番号 | 古墳番号 | 古墳の形 | 古墳の一辺の長さ | 葺石 | 周溝 | 古墳に伴う遺構             |
|----|------|------|----------|----|----|---------------------|
| 1  | 1号墳  | 方墳   | 10.0m    | ○  | ○  | 鉄刀・円筒埴輪<br>土師器：甕形土器 |
| 2  | 2号墳  | 方墳   | 8.0m     | △  | ○  | なし                  |
| 3  | 2A号墳 | 方墳   | 4.5m以上   | ×  | ○  | なし                  |
| 4  | 3号墳  | 方墳   | 13.0m    | ○  | ○  | 円筒埴輪<br>須恵器：甕形土器    |
| 5  | 4号墳  | 方墳   | 6.0m     | ×  | ○  | 須恵器：甕形土器            |
| 6  | 5号墳  | 方墳   | 8.5m     | ○  | ○  | なし                  |
| 7  | 6号墳  | 方墳   | 3.2m     | ×  | ○  | なし                  |
| 8  | 7号墳  | 方墳   | 6.5m     | ×  | ○  | 須恵器：甕形土器            |
| 9  | 8号墳  | 方墳   | 不明       | ○  | ○  | 須恵器：高环形土器<br>須恵器：鍼  |

古墳の長さ、高さは周溝の底から計測した。

| 番号 | 古墳番号 | 古墳の形 | 古墳の一辺の長さ | 葺石 | 周溝 | 古墳に伴う遺構 |
|----|------|------|----------|----|----|---------|
| 10 | 9号墳  | 方墳   | 不明       | ×  | ○  | なし      |
| 11 | 10号墳 | 方墳   | 不明       | ○  | ○  | なし      |

古墳の長さ、高さは周溝の底から計測した。



古墳時代終わり頃の遺物

Scale = 1/4      土錘は Scale 1/2

## 古墳時代

古墳時代後期終わりごろ（今から約1,400年前）

調査区の北西隅から南東隅へと流れる河道と、その両側の平坦部には柱穴と思われるピットを多数検出しましたが、いずれも並んでいないため、建物にはなりませんでした。

河道の幅は、現在、確認しているところでは、約8mあり、深さは、約60cmです。この河道の中には、非常に多量の土師器・須恵器・円筒埴輪片に混じって、網のおもりとしてつかわれる土錘や飯蛸壺などの漁労生活に関係する遺物も含まれています。

## 4まとめ

今回の発掘調査でわかったことをまとめてみると

1 最も重要なことは、市街地の中で早くから埋没してしまってわからなくなってしまった遺跡が確認されたことです。そして、菟原郡衙址と推定されている郡家遺跡と住吉宮町遺跡とが、一つの広がりとして考えられる遺跡の可能性がでてきたこと

2 古墳には前方後円墳・円墳・方墳などの形がありますが、住吉宮町遺跡で発見された古墳は、すべてが方墳であり、これらの古墳が非常に接近して造られ、群集していること

3 古墳の大きさが大きいほど、石を葺いたり、埴輪を立てるなど手のこんだ造り方をしていること

などがわかりました。

2回にわたる今回の発掘調査では、残念ながら、全体像を明らかにすることができた古墳は、ありませんでした。この地区で合計9基の古墳が群集しており、さらに、どれだけの古墳が埋もれているか想像もできません。今後、周辺で発掘調査が進展するにつれて、この周囲一帯の昔の姿は、より一層明らかになっていくものと期待されます。

## 追加資料

現地説明会資料は、9月4日までの資料をもとにして、作成しましたが、その後に発見されましたので、資料を追加しておきます。

### 9・10号墳

6号墳の東側に10号墳が、8号墳の東側に9号墳が発見されました。

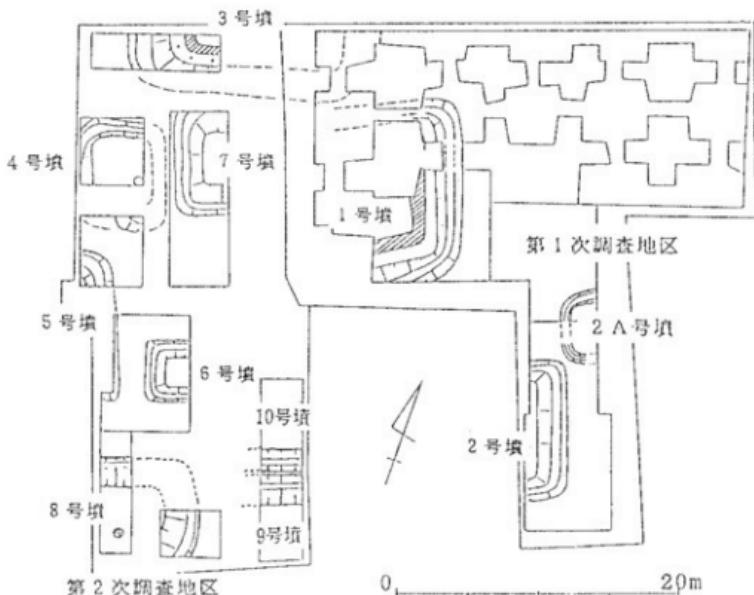
9号墳・10号墳は、それぞれの溝を接するようにして、並んで検出されました。

調査区が狭いため、溝の一部が発見されただけですので、古墳の規模は、不明です。

10号墳には、葺石がありますが、9号墳には、葺石がありません。

## 住吉宮町遺跡で発見された古墳の数

9／7 現在で11基です。



住吉宮町遺跡遺構全体図



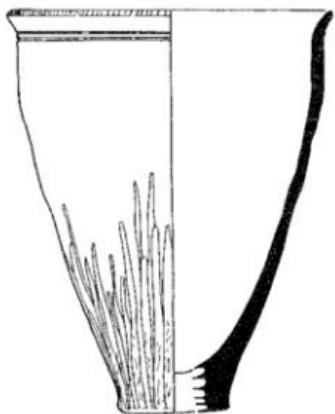




楠・荒田町遺跡

現地説明会資料

昭和 60 年度



昭和 60 年 9 月 29 日

神戸市教育委員会

☆ 今回の調査を実施するにあたっては、福カサベラ光和の協力を得ています。

## 1 はじめに

楠・荒田町遺跡は、神戸市営高速鉄道（市営地下鉄）建設工事に先立つ立会調査によって発見された遺跡です。

昭和53年10月から昭和54年3月まで軌道敷になる範囲の発掘調査を行いました。

調査の結果、楠・荒田町遺跡は、楠町5丁目から荒田町1丁目・西上橋通2丁目一帯に広がる遺跡で、弥生時代前期から平安時代後期までの遺物、遺構が発見される複合遺跡であることがわかりました。

この調査で発見された遺構は、

弥生時代前期：貯蔵穴

弥生時代中期：墓・住居址・溝

古墳時代後期：住居址

などです。

当遺跡が最近まで知られなかったのは、このあたり一帯が、神戸市内でも最も早くから市街化していた所の一つで、民家や商店街の下に遺跡があることに気づかなかつたためです。

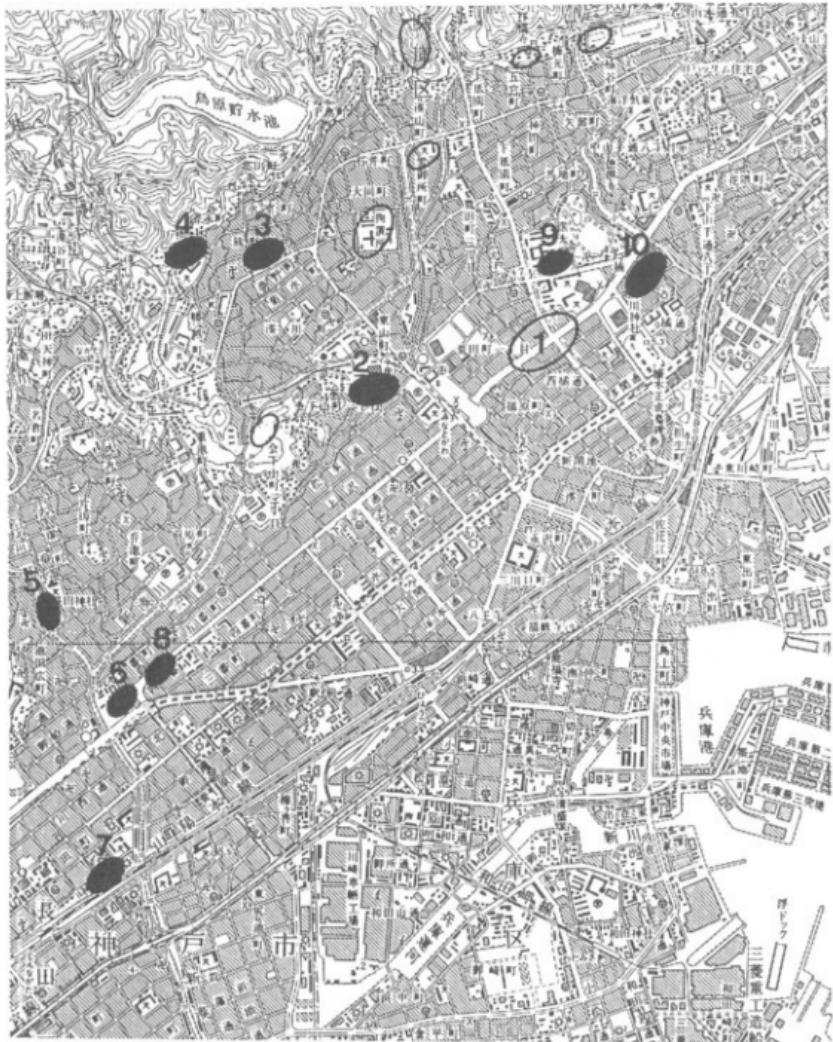
今回の調査は、再開発事業に先立ち、昭和60年8月28日から敷地約500m<sup>2</sup>を対象に行っていきます。



調査地の位置図

## 2 周辺の遺跡

|                |                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 先土器時代          | 会下山遺跡で先土器時代のナイフ形石器が採集されています。                                                                                                                                                                                                                |
| 縄文時代<br>宇治川南遺跡 | 楠・荒田町遺跡から東方約800メートルの所に宇治川南遺跡があります。宇治川南遺跡では、縄文時代早期から縄文時代晩期までの多数の土器や石器が出土しました。<br>これらの土器の中には、東北・関東地方の土器と関連するものがあります。また、大分県姫島産と考えられる黒曜石が晩期の土器に伴って出土しています。当時の広範な交流関係を知るうえで重要な遺跡です。<br>このほかにも最近の調査で確認された縄文時代の遺跡に、神戸大学医学部構内遺跡（後期）や五番町遺跡（晩期）があります。 |
| 弥生時代           | 弥生時代に入ると、遺跡数も急激に増え、東山遺跡・熊野神社遺跡・長田神社遺跡等が知られています。<br>熊野神社遺跡では、壺形土器の中に南海産のゴホウラ貝を加工した腕輪が30数個入れられていたのが発見されています。                                                                                                                                  |
| 古墳時代前期         | 古墳時代には、夢野丸山古墳・会下山二本松古墳・得能山古墳などの前期古墳が知られています。これらの古墳は、現在破壊されてしまって見ることはできません。                                                                                                                                                                  |
| 古墳時代後期         | 後期古墳は荒田神社付近にあったことが、古い記録から知ることができます。                                                                                                                                                                                                         |
| 奈良時代<br>平安時代   | 奈良時代になると房王寺が建立され、平安時代には、平清盛の別邸「雪の御所」などが造られたのもこの付近です。<br>福原京については、従来、謎となっていましたが、最近、神戸大学医学部の建物の建て替えに伴う発掘調査によって関連する遺構が発見されています。                                                                                                                |



周辺の主要遺跡

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1) 楠・荒田町遺跡  | 6) 長田神社南遺跡     |
| 2) 東山遺跡     | 7) 神塗遺跡        |
| 3) 河原遺跡     | 8) 五番町遺跡       |
| 4) 熊野遺跡     | 9) 神戸大学医学部構内遺跡 |
| 5) 長田神社境内遺跡 | 10) 宇治川南遺跡     |
| 無番号は遺物散布地   |                |

1 : 25,000

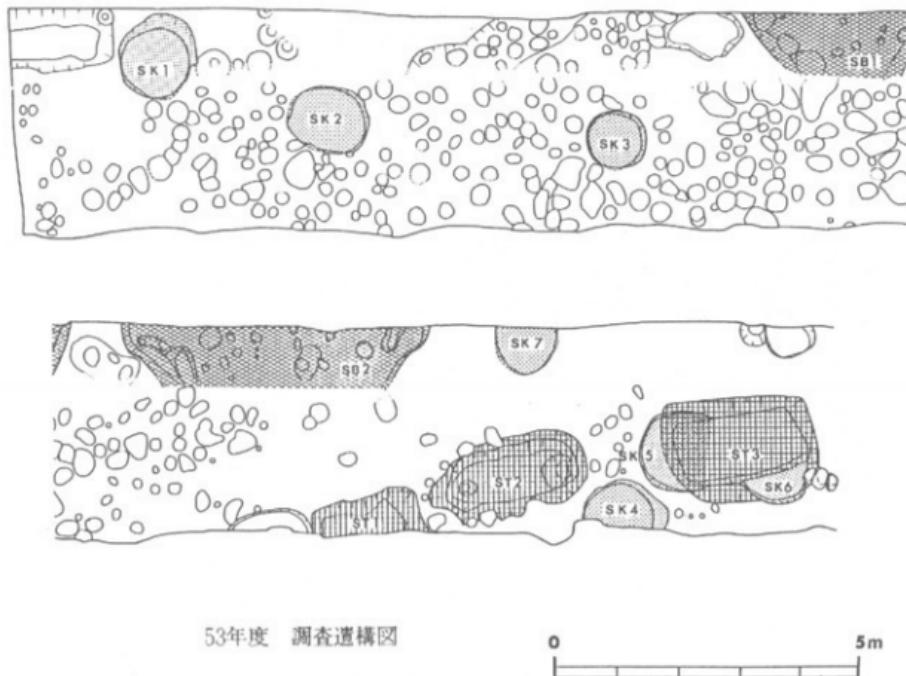
### 3 調査の概要

当遺跡は、中位段丘上に立地し、旧耕土下は花崗岩が風化・再堆積した真砂土の層です。

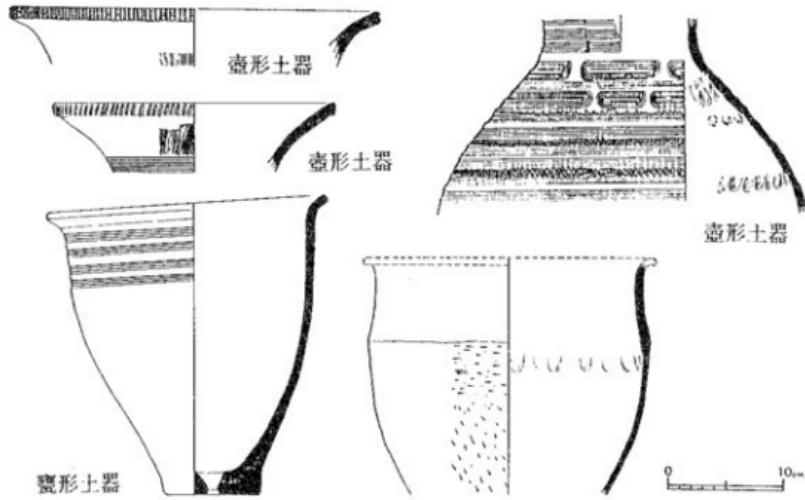
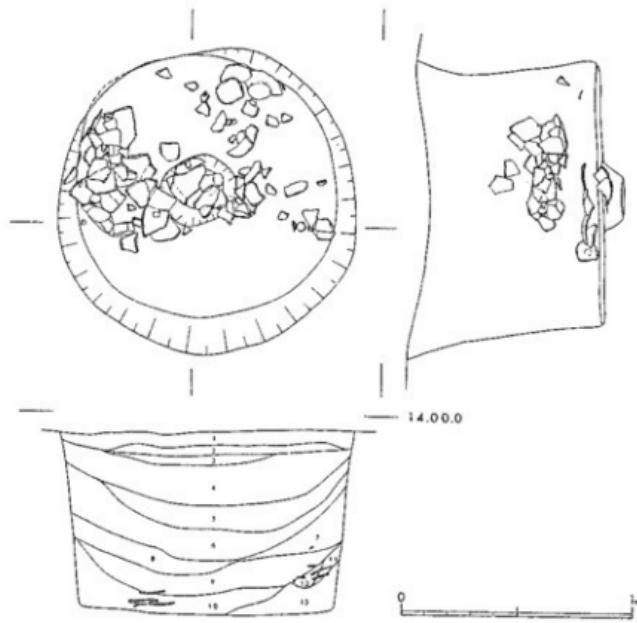
弥生時代の遺構は、この真砂土を切り込んで造られています。

#### 53年度調査

昭和53年度の地下鉄工事関連の発掘調査では、弥生時代前期～中期初めの貯蔵穴30基・溝2条・柱穴等、中期中頃の竪穴住居址2棟・溝3条・柱穴、後期の住居址1棟の他、古墳時代の住居址1棟、平安時代後期の柱穴が検出されました。同時に土器や石器類も多く出土しました。この中には、紀ノ川流域や河内・和泉地方の土器も出土しています。



53年度 調査遺構図



貯藏穴と出土土器(53年度調査)

## 今回の調査

今回の調査区は、以前の建物の基礎などによって攪乱を受けていましたが、弥生時代前期末から中期初頭にかけての貯蔵穴16基・掘立柱建物址1棟・土壙2基が発見されました。

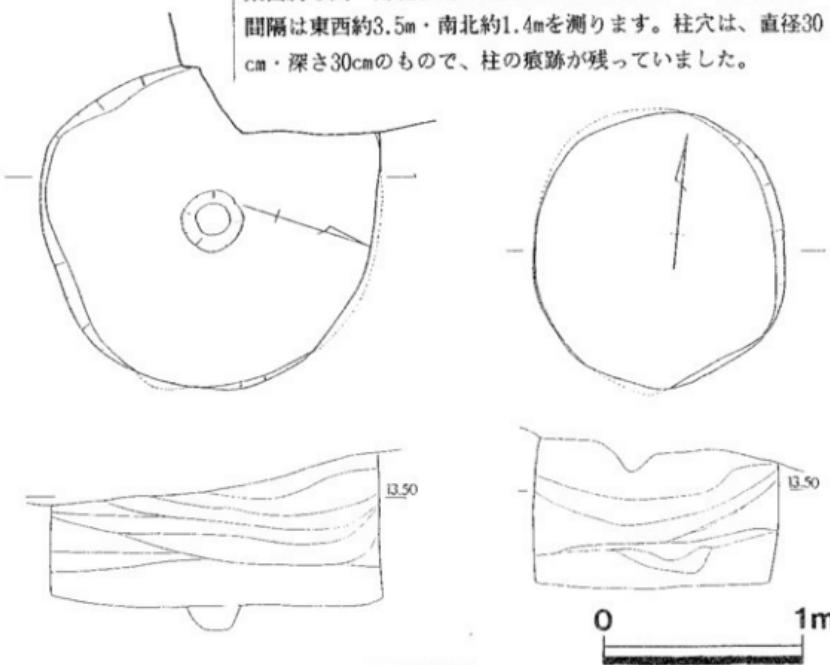
### 貯蔵穴

貯蔵穴16基の内、12基は直径1.1m内外の小型のもの、4基はやや大型で直径1.5m程度のものです。深さは上部が削られており、現在残っている深さは、30~80cmと幅があります。本来は、1m以上深く掘られていたとおもわれます。平面形は正円のもので、断面形は、壁が垂直に、底が水平に造られています。中からは、埋もれた土砂とともに「炭化した木ノ実・獸骨・土器・石器」等が発見されました。

### 掘立柱建物

また、弥生時代の掘立柱建物が検出されました。時期ははっきりしません。

調査区の南西隅で発見されました。調査区外に延びている可能性があるため、全形を知ることはできません。現状では、東西約1間・南北2間の柱穴5ヶ所を発見しています。柱の間隔は東西約3.5m・南北約1.4mを測ります。柱穴は、直径30cm・深さ30cmのもので、柱の痕跡が残っていました。



貯蔵穴実測図

## 遺 器

出土した土器の量は、整理用コンテナーで約50箱です。

土器の多くは、前期のもので、箒描きによる紋様や粘土を貼り付けた突帯紋などで飾られる土器です。

中期の初めごろの土器は、櫛描紋の土器で一度に数本の線を描いています。

出土した多くの土器の中には、紀ノ川流域・生駒西麓・和泉地方で作られた土器が入っています。

## 石 器

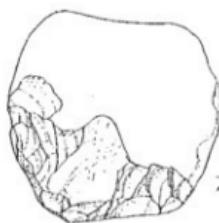
石器としては、緑色片岩製の磨製石包丁・方柱状片刃石斧・サヌカイト製の打製石鎌・石錐・不定形刃器（石のナイフ）などが発見されています。また、石器の素材となる剝片や石核などもあります。この他、石器を割る時に使う石製のハンマーなどが見つかっています。



1 打製石鎌

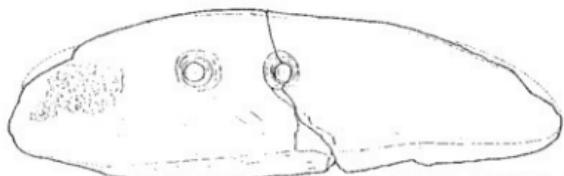


2 石錐



石製のハンマー

3

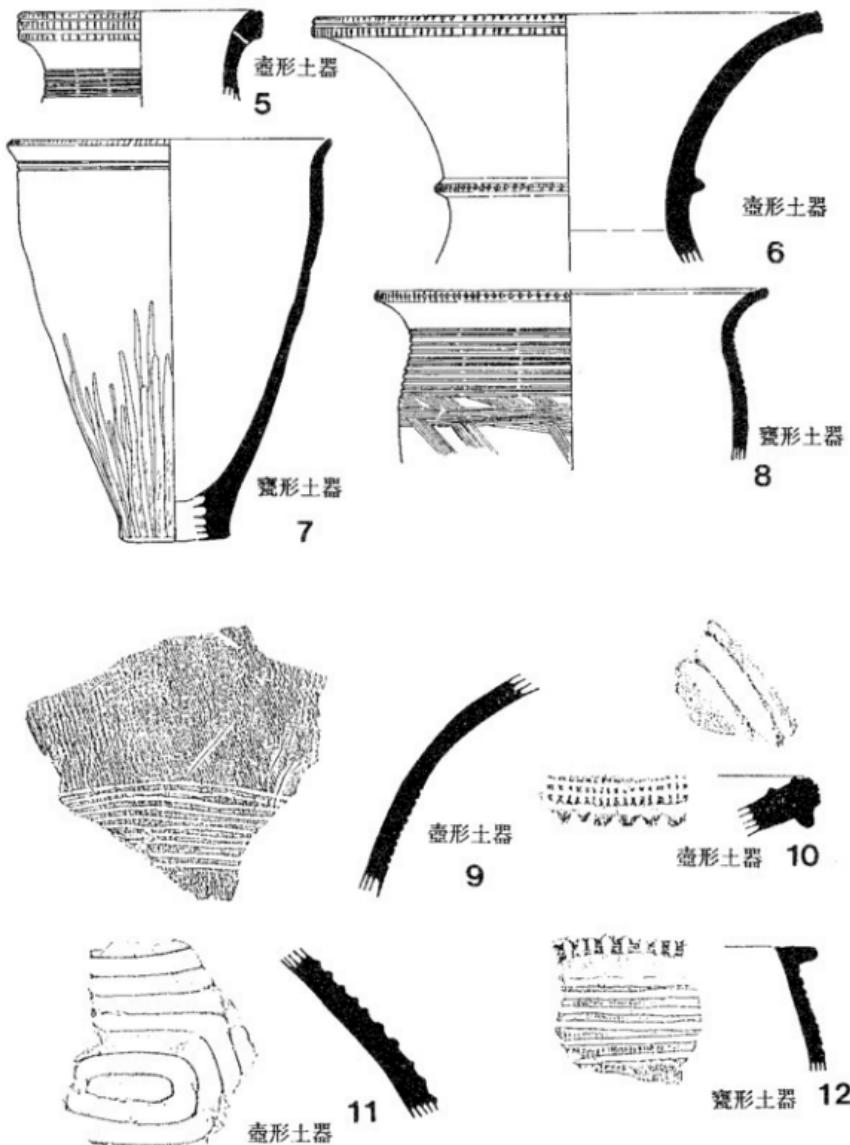


緑色片岩製の磨製石包丁



4

遺物実測図 (S = 1/3)



## 4まとめ

今回の調査で発見された成果は、

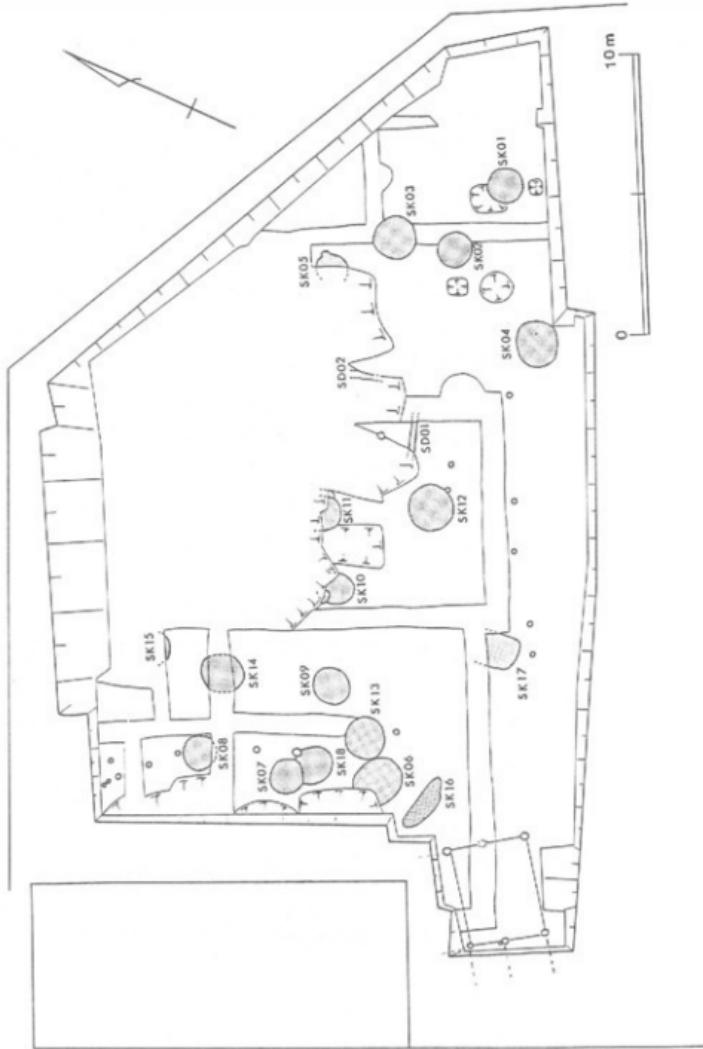
1. 貯蔵穴は九州地方に主として分布しています。近畿地方においても存在しますが現在のところ発見例は少なく、当遺跡のように40数基がまとめて発見されたのは畿内でも稀なことです。
2. 貯蔵穴の中からは、土器や石器に伴って炭化した種子・木ノ実・獸骨等が出土しており、当時の食生活を知る上で重要な資料となります。
3. 当遺跡で出土した土器には、紀ノ川流域・和泉地方・生駒山麓で作られた土器があり、大阪湾岸の各地との交流があったことを実証しています。
4. 過去の開発により擾乱を受けながらも、遺跡は消滅することなく、地下に残っていることがわかりました。

昭和53年に楠・荒田町遺跡が発見されて以後、中央区では神戸大学医学部構内の福原京関連遺構、宇治川南遺跡が発見されました。また、長田区内では、松野遺跡・神楽遺跡などが発見され、神戸の歴史を考える上で重要な遺跡が相次いで見つかっています。

これらの遺跡は、市街化が早く行われた地域で、従来知られなかった遺跡です。

まだ、まだ、重要な遺跡が道路や家屋の下に眠っていることでしょう。

今後、新たな発見が大いに期待される所です。

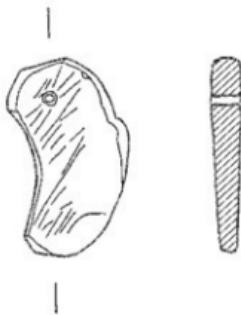


遺構全体図





都家遺跡  
城の前地区第14次調査  
現地説明会資料

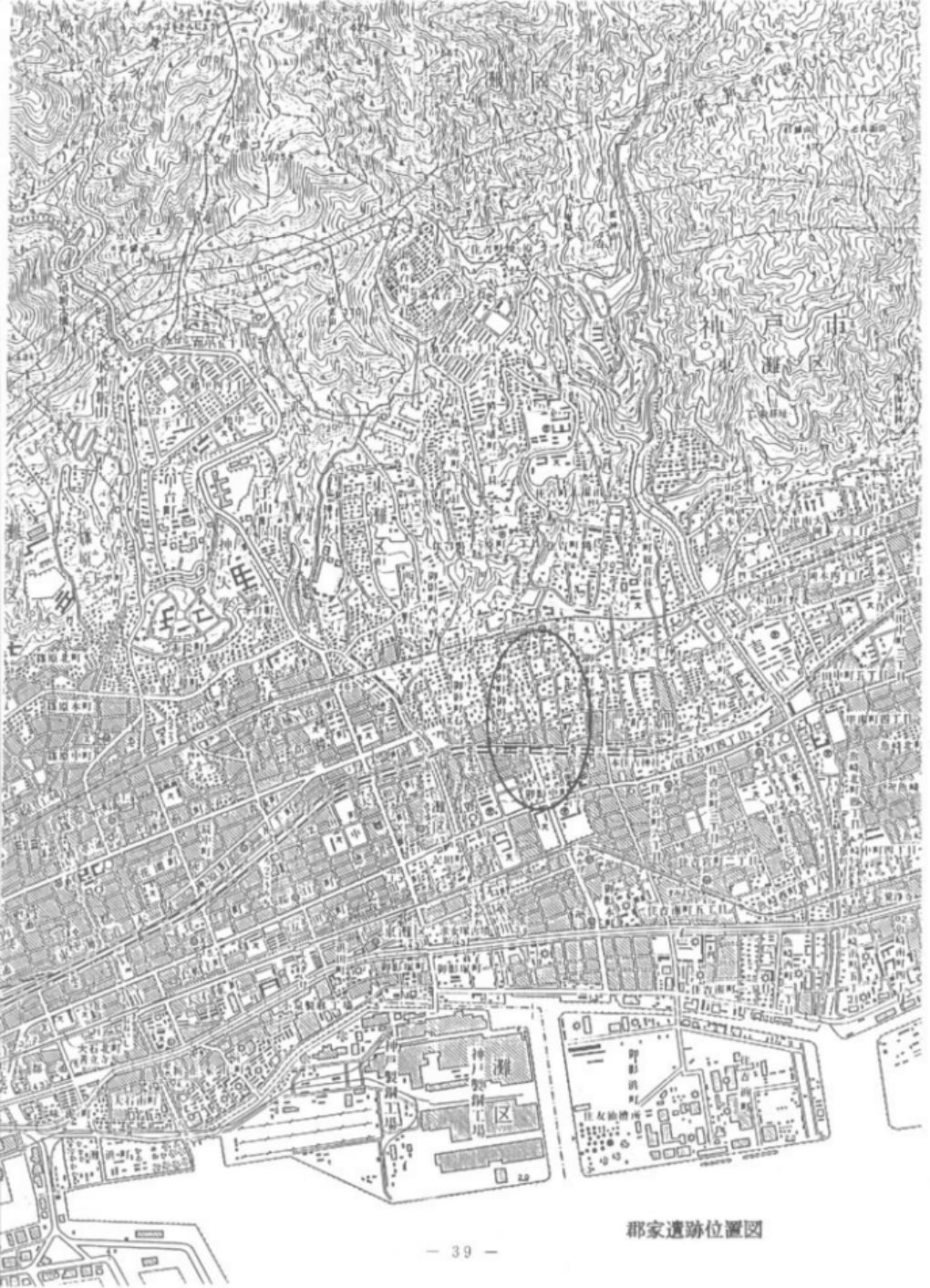


昭和60年11月10日

(財) 神戸市スポーツ教育公社  
神戸市教育委員会

表紙説明：滑石製勾玉（S B05出土）実寸

郡家遺跡の調査については、神戸市都市計画局の協力を  
得ました。



郡家遺跡位置図

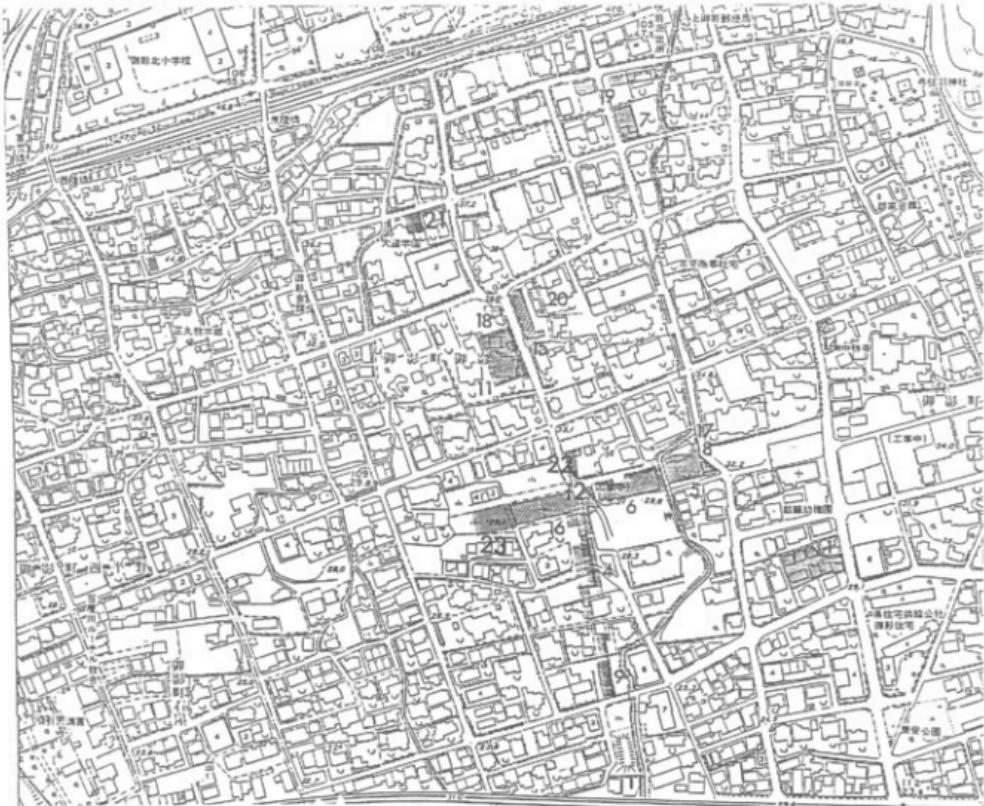
## 1 はじめに

郡家遺跡は、神戸市東灘区御影町郡家・御影、御影中町を中心に、東は住吉川、西は石屋川、北は阪急電鉄神戸線、南は国道2号線に及ぶと考えられる遺跡です。今回の調査は、都市計画道路山手幹線建設に伴うもので、調査地は、御影町御影城の前に所在しています。

## 2. 郡家遺跡の今までの調査

昭和54年度に行われた大蔵地区第1次調査では、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物址、昭和56年度の中町地区調査では、同じく、奈良時代から平安時代の柱穴群が検出され、このあたりが菟原郡衙であったと推定されています。

昭和57年度以降の城の前地区を中心とした調査では、奈良時代の遺構は見つかっておらず、古墳時代後期の竪穴住居址・掘立柱建物址を中心に、弥生時代後期の円形周溝墓、自然河道、平安時代・鎌倉時代の掘立柱建物址などが発見されています。今年に入ってからは、岸本地区第1次調査でも、古墳時代後期の竪穴住居址が見つかり、古墳時代の集落が北へ伸びていることがわかりました。またここでは、安土桃山時代以降のものと考えられる矢穴のある御影石が検出されており、転石を割って石材として利用しようとしたあとと思われます。城の前地区第12次調査では、弥生時代終りごろの土器棺が発見されました。また、今回の調査地の南東約500mに位置する住吉宮町遺跡では、古墳時代後期の方墳が11基見つかっています。



調査地の位置図

- 1) 大型地区第1次調査 (OR1)
- 2) 中町地区第1次調査
- 3) 水道工事立会
- 4) 天神川その1 (昭和57年)
- 5) 地底光気圧第1次調査 (JM1)
- 6) 埼ノ前地区第1次調査 (SM1)
- 7) 埼ノ前地区第2次調査 (SM2)
- 8) 地底光気圧第2次調査 (JM2)
- 9) 埼ノ前地区第3次調査 (SM3) 天神川その2
- 10) 天神川その3
- 11) 埼ノ前地区第4次調査 (SM4)
- 12) 埼ノ前地区第5次調査 (SM5) 天神川その3
- 13) 天神川その5
- 14) 千本田地区第1次調査 (TF1)
- 15) 埼ノ前地区第6次調査 (SM6)
- 16) 埼ノ前地区第7次調査 (SM7)
- 17) 地底光気圧第3次調査 (JM3)
- 18) 埼ノ前地区第8次調査 (SM8)
- 19) 埼ノ前地区第9次調査 (SM9)
- 20) 埼ノ前地区第11次調査 (SM11)
- 21) 深本地区第1次調査 (KM1)
- 22) 埼ノ前地区第12次調査 (SM12)
- 23) 埼ノ前地区第14次調査 (SM14)



### 3. 調査の概要

#### 弥生時代後期の遺構

##### 竪穴住居址 S B07

東西径 6m、南北径推定約 6.5mの円形住居址で、北側は攪乱、南側は S B10 によって切られています。4本柱であったと考えられます。

##### 竪穴住居址 S B15

S B16・S B05に切られる円形住居址で、直径は約 6mと推定されます。南端で、長頸壺・高坏などが出土しました。

##### 自然河道

調査区南西隅で検出された河道で、北西から南東へ流れています。河道内には粗砂と細砂が交互に堆積し、弥生時代後期の土器が多く出土しています。最上層では、古墳時代後期の須恵器・土師器もみつかっています。

#### 古墳時代中期～後期の遺構

##### 竪穴住居址 S B03

東西 2.9m、南北 3.2mの小型の方形住居址で、床面より 10~15cm 浮いた状態で、6世紀初頭の須恵器・高坏・土師器が検出されました。

##### 竪穴住居址 S B04

S B03と同様、小型の方形住居址で東西 2.6m、南北 3.2mを測ります。6世紀初頭の須恵器・坏・高坏・甕・土師器・高坏・甕が、床面から浮いた状態で出土しました。特に土師器甕は平均30cm以上浮いています。また、住居址西辺中央には、土の焼けた部分があります。



須恵器甕 (SB03出土)

scale = 1 / 3

- 竪穴住居址 S B05 東西 4.9m、南北 4.3mの方形住居址で床面から5世紀後半の須恵器把手付椀・壺・土師器甌が出土しました。また、埋土中より滑石製勾玉が出土しています。
- 竪穴住居址 S B08 北側は調査区外にあり、西側は攪乱を受けている方形住居址で、規模は不明です。
- 竪穴住居址 S B09 東西 3.3mの方形住居址で、南辺はSK03に切られています。西辺で、周壁溝が検出されています。
- 竪穴住居址 S B10 S B07を切る方形住居址で、3隅が調査区外にあるため規模は不明です。床面で、6世紀初頭の須恵器壺・土師器高壺が出土しました。
- 竪穴住居址 S B13 隣接する東側の地区の調査（城の前地区第7次調査西4区）で検出された方形住居址の西辺です。住居址の規模は東西 6.5m、南北 6.9mであることがわかりました。
- 竪穴住居址 S B14 S B05を床面まで下げたところ、検出された方形住居址で、東西 3.5m、南北 3.1mを測ります。
- 竪穴住居址 S B01  
S B11  
S B16 すべて方形の住居址で、S B01は東西 6.4m、南北 6.2m、S B11は東西 5.5m、南北 6.0m、S B16は東西 6.4m、南北 7.4mを測ります。切り合い関係から、S B16・S B11・S B01の順に建てられたことがわかります。
- 掘立柱建物址 S B02 2間×2間の建物で、南西隅の柱穴は攪乱を受けて失われています。
- 掘立柱建物址 S B17 2間×2間の東西に長い建物で、S B05が埋まつたあとに建てられています。
- 掘立柱建物址 S B18 東西南北方向 3間、南北方向 4間以上の建物で、S B09を切っています。

土壌墓S T01

東西 1.1m、南北 2.8mの長辯円形の土壌で、6世紀前半の須恵器の提瓶・壺・甕、滑石製の有孔円板が出土しました。これらは、供献された遺物と考えられます。

土器棺墓S T02

自然河道が埋没したあとに掘られた、直径33cmの土壌に土師器の甕が、少し傾いた状態で埋められていました。土器棺の中からは、骨片が検出されています。

土壌 S K03

S K04

S K03はS B09を切り、S K04はS T01に切られる土壌で、ともに南側は調査区外にあるため、規模は不明です。

土器溜り土壌 S K05

S B09が埋没した後に掘られた土壌で、直径50cmを測ります。土壌の上・中層から、須恵器の甕と壺が出土しました。



滑石製勾玉 (SB05出土)



滑石製有孔円板 (ST01出土)

実寸

## 中世の遺構

土壙SK01

東西1.3m、南北1.7mの浅い楕円形の土壙で、出土遺物が小片のため、明確な時期はわかりませんが、中世のものと考えられます。

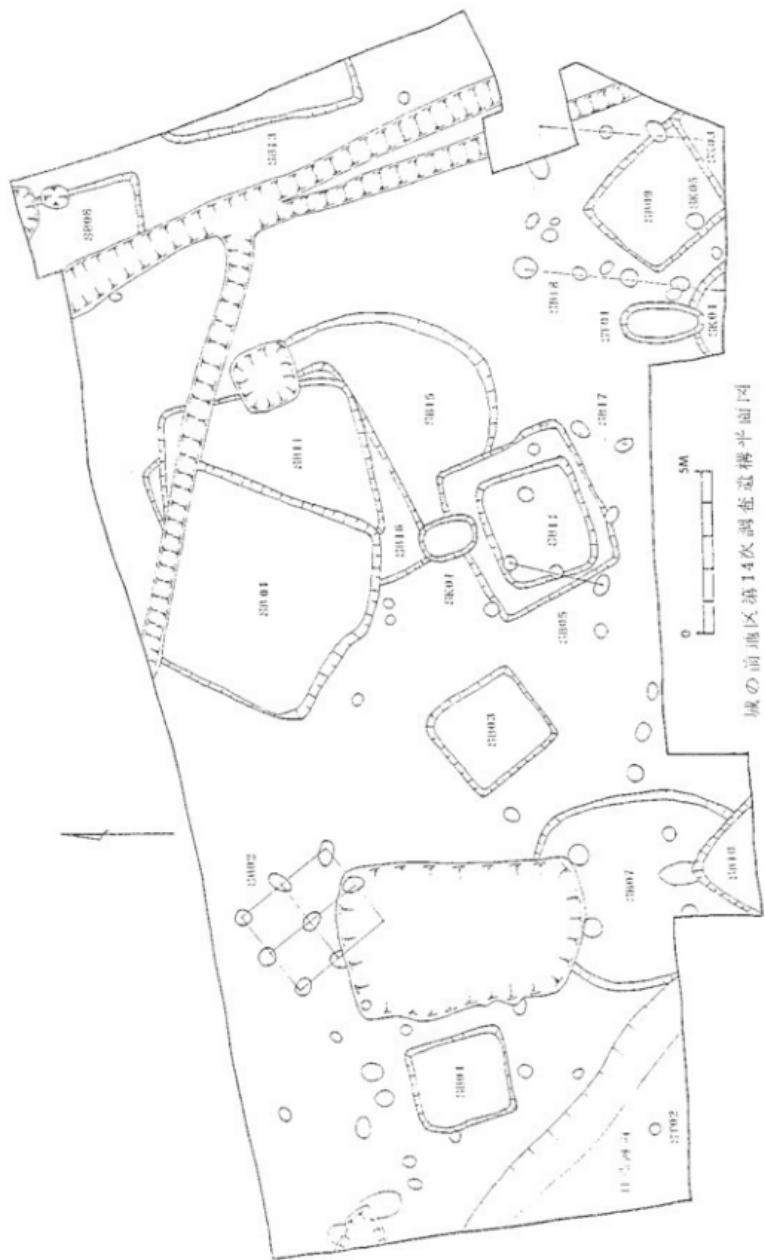
## 4まとめ

今回の調査では、昨年度の調査に続いて竪穴住居址、掘立柱建物址が発見され、城の前地区を中心とした古墳時代後期の集落が、西へ広がっていることが明らかになりました。調査区の西端に自然河道が流れていることから、ここが集落の西辺であろうと考えられます。

出土遺物の中では、滑石製の勾玉と有孔円板が注目されます。同様の遺物が中町地区第1次調査でも見つかっています。

また、郡家遺跡で弥生時代の住居址が明確な形で検出されたのは、今回が初めてです。

図の前島区第14次調査遺構平面図

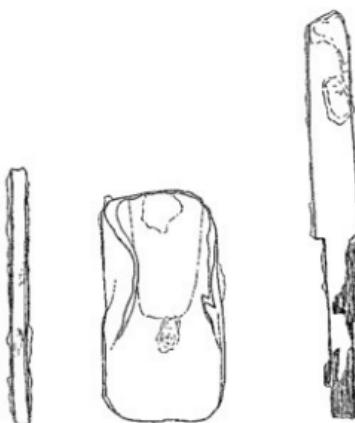






西神ニュータウン内 55 地点遺跡

現地説明会資料



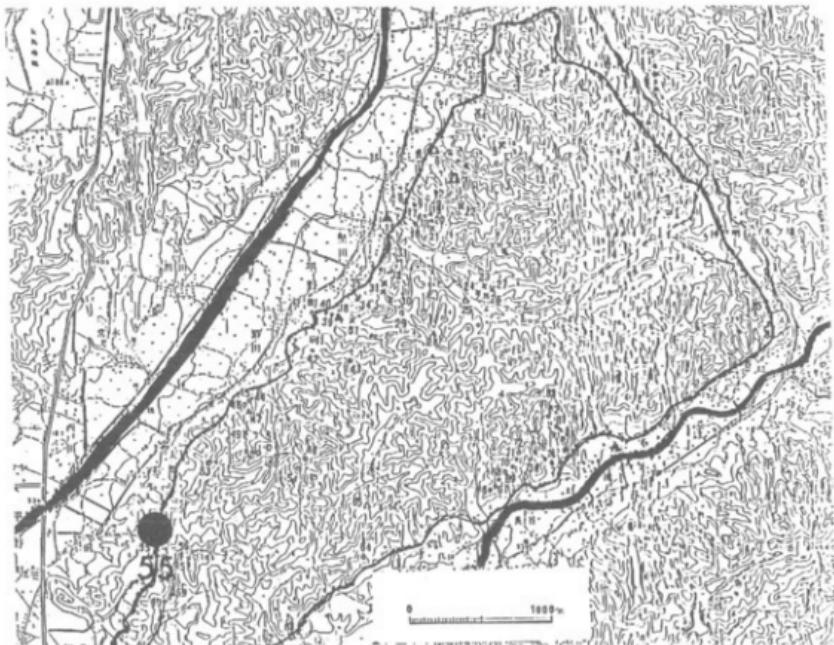
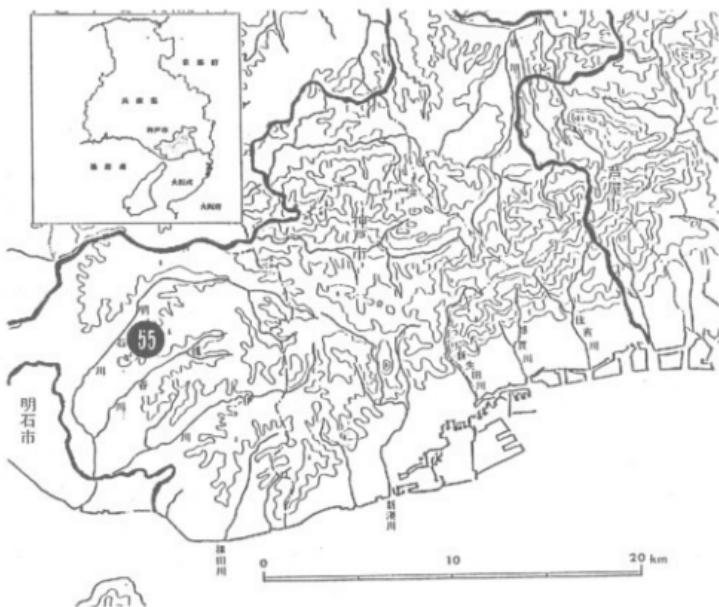
昭和 60 年 12 月 15 日

神戸市教育委員会

(財) 神戸市スポーツ教育公社



西神N055地点遺跡の位置図



## 1 はじめに

西神住宅団地・工業団地（908ha・計画人口67,000人）の建設に伴い、昭和45年度から発掘調査を実施し、現在約100か所の遺跡を確認しています。その遺跡の種類は、弥生時代の集落・墓址と4世紀から6世紀にかけての古墳、平安時代末期～鎌倉時代の窯址などです。そのほとんどは調査終了後の造成により消滅しています。しかし、その一部は神戸市開発局の協力によって、公園・緑地として保存・活用されることになっています。

その主な遺跡として春日台の50～52地点（弥生時代中期の集落址）、44・45地点（前期古墳）、47地点（弥生時代の墓址群）、繁田地区の40地点（弥生時代の台状墓）、堅田地区の87地点（古墳）、9地点（古墳）、養田地区の養田中の池遺跡（弥生時代の集落址他）、樺野台の65地点（弥生時代の集落址）、中央線沿いの73～77地点（古墳5基）などがあります。これらの遺跡から、この地域は約2,000年前から人々が様々な生活を営んでいた場所であることがわかります。

西神ニュータウン内に保存されている遺跡

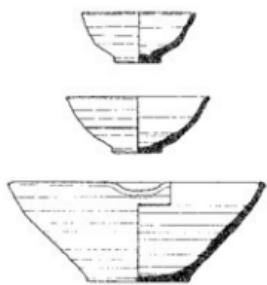


## 2 周辺の遺跡

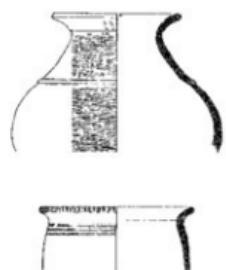


周辺遺跡分布地図

西神ニュータウン周辺の遺跡地名表 その1



神出古窯址群  
出土の須恵器  
・瓦  
 $S = 1 / 6$



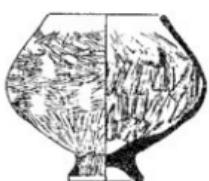
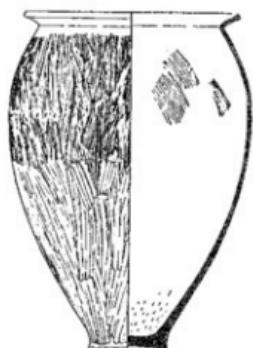
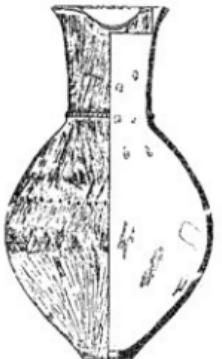
玉津・田中遺跡出土  
弥生時代前期  
の土器  
 $S = 1 / 6$

| 番号 | 遺跡名        | 所在地       | 遺跡の年代と遺跡の種類                                                         |
|----|------------|-----------|---------------------------------------------------------------------|
| 1  | 西神N.T.55地点 | 平野町 宮前    | 今畠、発掘調査を実施                                                          |
| 2  | 神出古窯址群     | 神出町       | 平安時代～鎌倉時代の瓦・須恵器の窯址群                                                 |
| 3  | 元住吉山遺跡     | 押部谷町篠田    | 縄文時代後期・弥生時代中期                                                       |
| 4  | 七曲り古墳群     | 押部谷町和田    | 古墳時代後期・7基の古墳群                                                       |
| 5  | 兼田 遺跡      | 押部谷町兼田    | 弥生時代～鎌倉時代<br>古墳時代：獨立柱建物址 他                                          |
| 6  | 堅田 遺跡      | 平野町 堅田    | 弥生時代～鎌倉時代                                                           |
| 7  | 墨田 遺跡      | 平野町 墨田    | 弥生時代～鎌倉時代                                                           |
| 8  | 風田 遺跡      | 平野町 黒田    | 古墳時代～鎌倉時代<br>古墳時代：整穴住居址 他                                           |
| 9  | 常本古墳群      | 平野町 常本    | 古墳時代後期・8基以上の古墳群                                                     |
| 10 | 常本 遺跡      | 平野町 常本    | 弥生時代前期～古墳時代<br>弥生時代・古墳時代の整穴住居址 他                                    |
| 11 | 大畑 遺跡      | 平野町 大畑    | 弥生時代                                                                |
| 12 | 西戸田 遺跡     | 平野町 西戸田   | 弥生時代前期～鎌倉時代                                                         |
| 13 | 長谷 遺跡      | 樋谷町 長谷    | 鎌倉時代                                                                |
| 14 | 松本4地点古墳    | 樋谷町 松本    | 古墳時代後期<br>直径10mの円墳、墳丘外に埴輪柱                                          |
| 15 | 鹿明寺古墳群     | 玉津町 鹿明寺   | 古墳時代後期・6基以上の古墳群                                                     |
| 16 | 居住・小山遺跡    | 玉津町 居住・小山 | 古墳時代後期 発掘調査によって確認<br>削平され開拓のみ残存、5基発見<br>円墳2基・方墳3基、周辺から土器群<br>1木棺直葬！ |
| 17 | 玉津・田中遺跡    | 玉津町 田中    | 弥生時代前期～鎌倉時代<br>弥生時代・整穴住居址 他                                         |
| 18 | 中村古墳群      | 平野町 中村    | 古墳時代中期末～後期 5基の古墳群<br>割竹形木棺直葬・箱式石棺、帶金具                               |
| 19 | 居住 遺跡      | 玉津町 居住    | 弥生時代前期～鎌倉時代<br>鎌倉時代：獨立柱建物址                                          |
| 20 | 出合 遺跡      | 玉津町 出合    | 古墳時代～平安時代<br>前方後円墳1基（全長30m）円墳2基（直径11m・直径12m）方墳1基（一辺約10m）            |

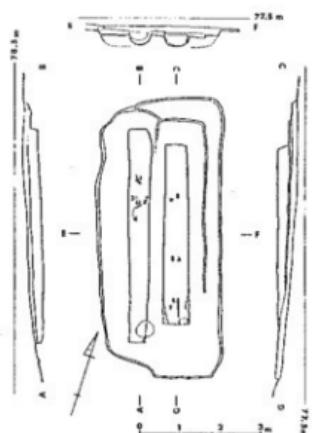
西神ニュータウン周辺の遺跡地名表 その2

| 番号 | 遺跡名     | 所在地     | 遺跡の年代と遺跡の種類                                                                             |
|----|---------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 21 | 王塚古墳群   | 玉津町 王塚台 | 王塚古墳(全長約8.5m)とその陪塚4基以上                                                                  |
| 22 | 森友 遺跡   | 玉津町 森友  | 弥生時代                                                                                    |
| 23 | 吉田 遺跡   | 玉津町 吉田  | 弥生時代前期                                                                                  |
| 24 | 吉田南 遺跡  | 玉津町 森友  | 弥生時代～鍾乳時代<br>竪穴住居址(傍柱式後期7棟)<br>古墳時代後期80基<br>圓立柱建物址(奈良～平安時代前期30～40棟)<br>(平安時代後期～鎌倉時代40棟) |
| 25 | 今津 遺跡   | 玉津町 今津  | 弥生時代中期～古墳時代<br>弥生時代中期(竪穴住居址8棟以上)                                                        |
| 26 | 高津堀・岡遺跡 | 玉津町 高津堀 | 弥生時代後期～古墳時代後期<br>弥生時代後期(竪穴住居址1棟)<br>古墳時代後期(竪穴住居址8棟)                                     |
| 27 | 新方 遺跡   | 玉津町 新方  | 弥生時代～鍾乳時代<br>古墳時代後期玉器製造作                                                                |
| 28 | 延命寺 古墳  | 伊川谷町延命寺 | 円墳(箱式石棺、鐵劍)                                                                             |
| 29 | ひさご塚古墳群 | 伊川谷町白水  | 古墳時代前期<br>前方後円墳(全長約68m)<br>円墳・円筒埴輪                                                      |
| 30 | 天王山古墳群  | 伊川谷町別府  | 古墳時代前期～後期<br>初期：墓方形墳(19×16m)<br>割竹形木棺2基<br>後期：円墳3基・帆立貝式古墳1基                             |
| 31 | 北別府 遺跡  | 伊川谷町北別府 | 弥生時代中期～平安時代 木棺墓 墓                                                                       |
| 32 | 南別府 遺跡  | 伊川谷町南別府 | 绳文時代後期～平安時代                                                                             |
| 33 | 鬼神山古墳群  | 伊川谷町北別府 | 古墳時代後期 円墳數基の古墳群<br>変形船底式鏡・扇鏡 墓                                                          |
| 34 | 池上北 遺跡  | 伊川谷町池上北 | 弥生時代後期～古墳時代前期<br>火災歿址 墓                                                                 |
| 35 | 池上口ノ池遺跡 | 伊川谷町池上  | 弥生時代中期～古墳時代中期<br>集落址                                                                    |
| 36 | 豊田神社古墳群 | 平野町 豊田  | 古墳時代前期～後期<br>初期1基(割竹形木棺2基・箱形木棺1基)<br>後期5基以上                                             |

新方遺跡出土  
弥生時代中期  
の土器  
 $S = 1/6$



### 3 古墳時代の明石川



天王山4号墳  
埋葬施設実測図

明石川流域で最も古い古墳として、天王山4号墳（伊川谷町潤和）があげられます。天王山4号墳は長辺19m、短辺2.7mの長方形墳で、長さ5.4mと4.5mの2基の割竹形木棺を埋葬した古墳です。墳丘は地山を掘削し裾部を造り出し、その掘削土を盛土として利用しています。棺内からは、八禽鏡、袋状鉄斧、銀・錫先、鉄刀、刀子、鏡、ガラス玉、管玉が副葬していました。また、墳丘には土器棺1基が出土しています。次に古い古墳は、この天王山古墳群のすぐ西側の丘陵頂にある白水ひさご塚古墳（伊川谷町白水）です。全長約68mの前方後円墳で、この周囲に多数の円筒棺群が出土しています。この西神ニュータウン内遺跡の中にも前期に属する堅田神社1号墳が存在しています。この堅田神社1号墳にも2基の全長4mを超える割竹形木棺と全長約1.5mの箱形木棺が埋葬されました。この2基の割竹形木棺の周囲には、円礫をつめた排水溝がめぐっていました。棺内から鏡、鉄劍、管玉が出土しています。

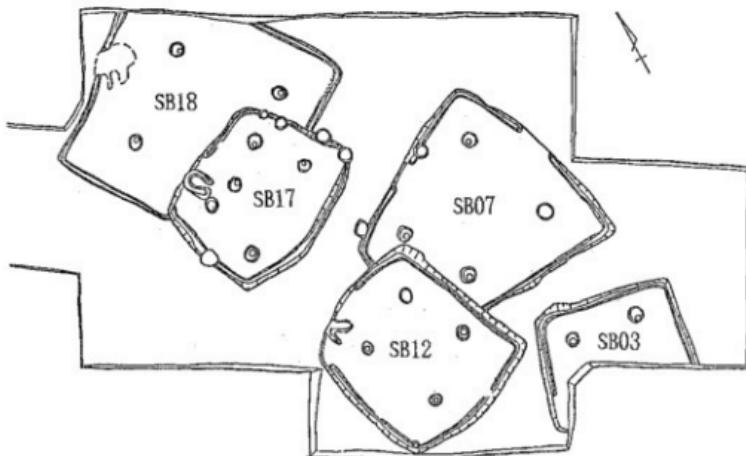


王塚古墳地形実測図

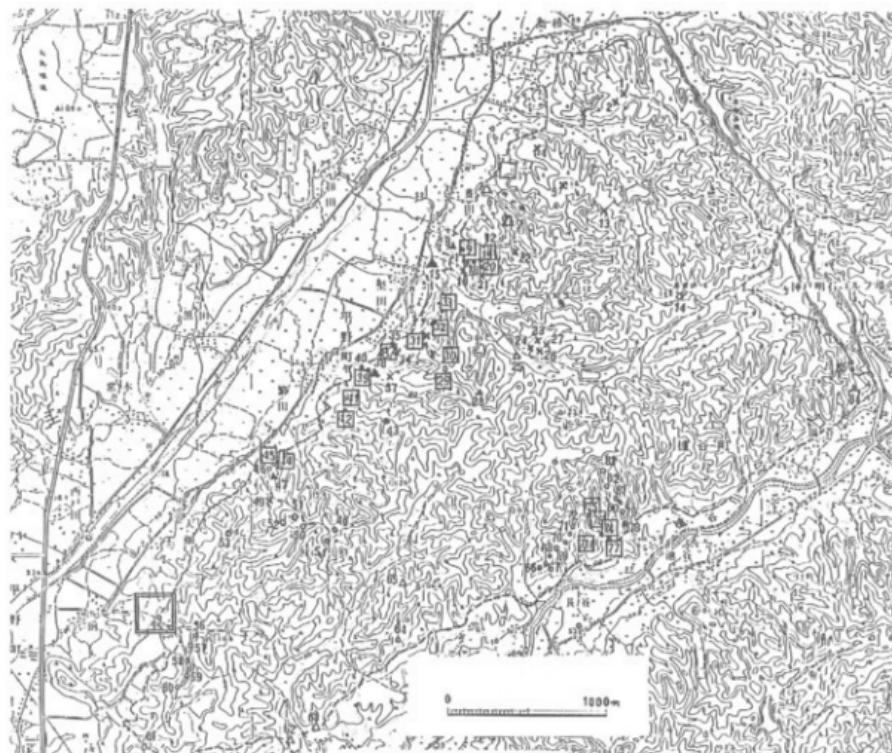
このように割竹形木棺の周囲に礫を敷く例は西神30-1号墳や西神41地点古墳がありますが、これらは副葬品として鉄劍、鉄鎌などの鉄製品しかもたず、鏡や玉類を副葬していません。これらの古墳は中期に属すると考えられます。これらは丘陵上に立地する中期古墳ですが、平野部では前方後円形の王塚古墳を主墳とする古墳群が形成されています。この古墳群を形成したと推定される集落址が出土遺跡でみつかっています。

後期にはいると河川をみおろす丘陵上に古墳が群集して造られるようになります。明石川では常本古墳群、中村古墳群、七曲り古墳群、西神N-T30~35地点古墳、慶明寺古墳群などがあります。櫛谷川では西神73~77地点古墳などがあり、伊川では鬼神山古墳群や天王山

古墳群があります。いずれも多量の須恵器を副葬する木棺直葬墳です。しかし明石川上流域の雌岡山古墳群や道心山古墳群では、横穴式石室が多く採用されています。これら後期古墳の総数は、前・中期に比べて圧倒的に多くなります。後期の集落としては、黒田遺跡（平野町黒田）、高津橋・岡遺跡（玉津町高津橋）、池谷遺跡（據谷町池谷）、吉田南遺跡（玉津町森友）、養田遺跡（平野町養田）などで竪穴住居址や掘立柱建物址がみつかっています。



高津橋岡遺跡  
古墳時代の竪穴住居址平面図  
(S = 1/200)

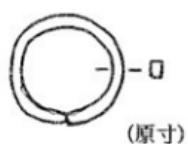
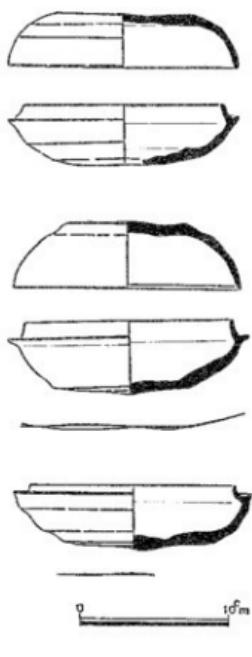


西神NT内の古墳分布図 (番号……古墳)

西神ニュータウン内の古墳

| 地 点 名  | 所 在 | 墳 形 (規模) m    | 埋葬施設   | 出 土 遺 物        | 時 期  |
|--------|-----|---------------|--------|----------------|------|
| 9地点    | 美 田 | 円 (径11、高1)    | 割竹形木棺  | 須恵器 (壇丘)<br>刀子 | 中 期? |
| 18地点   | 美 田 | 円?            | 箱形木棺墓  | 須恵器、刀子         | 後 期  |
| 19地点   | 堅 田 | 円 (径6.5)      | 箱形木棺墓? | 須恵器、刀子         | 後 期  |
| 20-1地点 | 堅 田 | 円?            | 箱形木棺墓? | 須恵器            | 後 期  |
| 20-2地点 | 堅 田 | 円?            | 箱形木棺墓? | 直刀、鉄鏃          | 後 期  |
| 20-3地点 | 堅 田 | 円?            | 箱形木棺墓  | 土師器、須恵器        | 後 期  |
| 29地点   | 堅 田 | 円 (径10、高0.75) |        | 埴輪             | 後 期  |

西神ニュータウン内の古墳



38地点ST01出土の  
須恵器・銀製指輪

| 地 点 名        | 所 在 | 墳 形 (規模) m          | 埋葬施設               | 出 土 遺 物        | 時 期  |
|--------------|-----|---------------------|--------------------|----------------|------|
| 30-1地点       | 堅 田 | 円 (径12×高1)          | 割竹形木棺木<br>槨 (馬蹄彫床) | 剣、鏡            | 中 期  |
| 31-3地点       | 堅 田 | 円?                  |                    | 須恵器            | 後 期  |
| 32-1地点       | 堅 田 | 円?                  | 箱形木棺蓋              | 須恵器            | 後 期  |
| 32-2地点       | 堅 田 | 円 (径12、高1)          | 箱形木棺蓋              | 須恵器            | 後 期  |
| 33-1地点       | 堅 田 | 円 (径15、高1.7)        | 箱形木棺蓋              | 須恵器            | 後 期  |
| 33-2地点       | 堅 田 | 円 (径10、高1.2)        | 箱形木棺蓋              | 須恵器、刀子         | 後 期  |
| 33-3 A<br>地点 | 堅 田 | 円 (径8.5、高1)         | 箱形木棺蓋              | 須恵器、管玉         | 後 期  |
| 33-3 B<br>地点 | 堅 田 | 円 (径12、高1.2)        | 箱形木棺蓋              | 須恵器、鏡          | 後 期  |
| 33-5地点       | 堅 田 | 円 (径10、高1)          | 箱形木棺蓋<br>(前方内石積)   | 須恵器            | 後 期  |
| 38地点         | 雪 田 | 無墳丘                 | 箱形木棺蓋              | 須恵器、刀子、銀<br>指輪 | 後 期  |
| 39地点         | 雪 田 | 円? (径10?)           | 割竹形木棺蓋             | 刀、鏡、土師器        | 後 期  |
| 41地点         | 雪 田 | 椿円                  | 割竹形木棺蓋<br>(馬蹄形)    | 鏡、須恵器 (墳丘)     | 中期?  |
| 42地点         | 雪 田 | 円                   | 箱形木棺蓋              | 須恵器、ガラス玉       | 後 期  |
| 44地点         | 雪 田 | 方 (辺9、高1)           | 割竹形木棺蓋             | 剣、鏡、土師器        | 前 期  |
| 45地点         | 雪 田 | 方 (辺11×17、<br>高1.2) | 割竹形木棺蓋             |                | 前 期  |
| 46地点         | 雪 田 | 円 (径16、高1.8)        |                    |                | 前期?  |
| 55-1地点       | 宮 前 | 円                   |                    |                |      |
| 55-2地点       | 宮 前 | 椿円                  |                    |                |      |
| 55-3地点       | 宮 前 | 方                   |                    |                |      |
| 73~77地点      | 池 谷 | 円                   |                    |                |      |
| 87地点         | 堅 田 | 円 (径13、高2)          | 箱形木棺蓋?             | 須恵器、甲冑、<br>鐵石  | 中 期? |

## 4 調査の概要

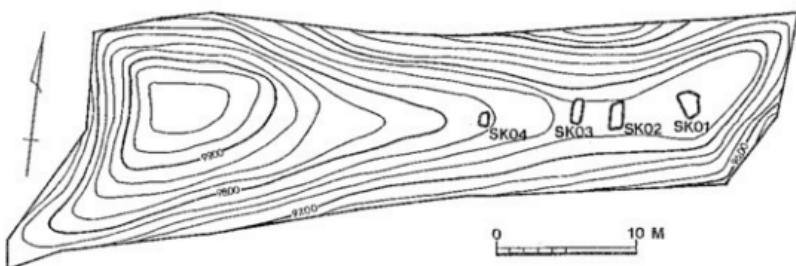
### 経過

昭和45年に実施した分布調査の際に古墳状隆起がB地区で認められ、西神ニュータウン内55地点遺跡と呼ばれていました。昭和60年度に造成計画に伴い、遺跡の範囲を確認するための試掘調査を6月3日～7月9日にかけて行いました。調査の結果、古墳状隆起3基と土壙が確認されたため、8月からA・B・Cの3地区合計約7,000m<sup>2</sup>について全面発掘調査を行いました。

### A 地区

標高90.5m～95.5mの約800m<sup>2</sup>を調査し、この丘陵頂から4基の土壙を検出しました。いずれも不整形で、大きいもので2.0m×0.9m、小さいもので1.0m×0.7mです。急な丘陵頂にあるために流失が激しく、4基とも深さは0.1cm程度しか残っていませんでした。遺物が出土しなかったため、時期を確定することはできません。しかし、東側に続く丘陵頂部の西神59地点遺跡で、弥生時代中期の土壙墓や木棺墓が出土しており、その様相と近似していることから、今回検出した4基の土壙も弥生時代の土壙墓である可能性があります。

A地区遺構配置図



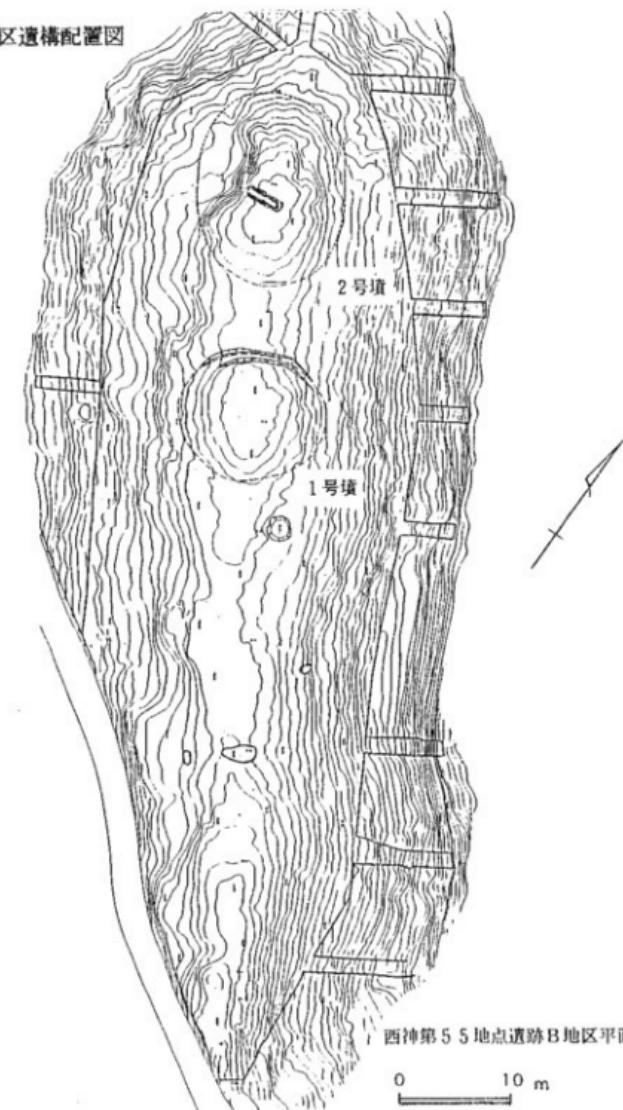
西神第55地点遺跡トレンチ配置図



B 地 区

標高約60m~80mの南北に伸びる尾根の約 2,800m<sup>2</sup>を調査し、2基の古墳と3基の土壙を検出しました。

B地区遺構配置図



西神第55地点遺跡B地区平面図

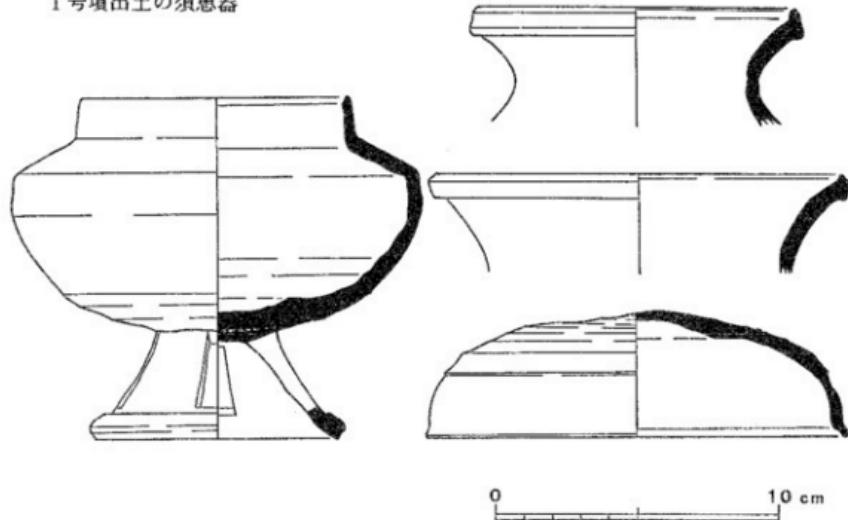


## 1号墳

1号墳は東西13.4m、南北11.5m、高さ 0.5~ 1.3m の円墳です。狭い尾根筋で墳丘を大きくするために東西斜面に盛土をして裾部をつくっています。尾根方向の裾部は、地山を溝状に掘り込んで造り出しています。墳丘はこのように本来の丘陵上の高まりを最大限に利用し、地山を削り出してその掘削土を盛土としていたようです。しかしその盛土が軟弱であったためか流失してしまっており、盛土中に築かれていたであろう埋葬施設も流失してしまっていて発見することはできませんでした。そしておそらくその埋葬施設に副葬されていたと考えられる須恵器が墳丘の裾部付近から出土しています。出土した須恵器の種類には壺蓋、壺身、短頸壺、甕、高壺がありました。

墳丘の裾部2ヶ所で火を焚いた痕跡（焼土）が残っていることから、埋葬時あるいは埋葬以降に火をつかったまつりが行われていたと考えられます。

1号墳出土の須恵器

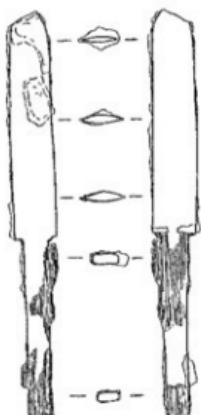


## 2号墳

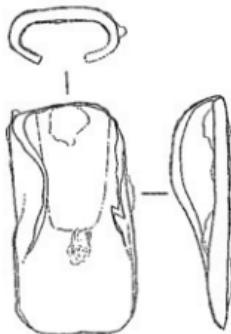
1号墳のすぐ北側に2号墳があります。この丘陵はここから北側に向かって急に下がっているため、2号墳は丘陵の尖端に位置している形になります。したがって明石川と平野部に対する眺望は良い地点です。墳丘はすでに大きな削平を受けており、本来の形状や規模は明確ではありません。現在の状態から推定すると南北17.5m、東西13.3m、高さ 0.5~ 2.2mの楕円形墳です。1号墳と同じく本来の丘陵上の隆起を利用して築かれています。現状では盛土はまったく認められませんが本来は盛土が行われていたと推定されます。それは墓壙が浅いことからもうかがえます。

埋葬施設は割竹形木棺を埋葬し、棺の下と周囲を5cm程度の円礫を含む土でおおっています。削平を受けているため全体の長さは不明ですが、現在残っている墓壙が長さ 3.8m、幅 1.2m、棺の長さ 2.8m、幅0.4m、深さ 0.2mです。棺の床面には朱が残っていますが濃淡が見られ、濃い部分が頭の部分ではなったかと推定されます。朱は割竹形木棺であったため断面はU字形をしています。棺内からは袋状鉄斧 1、鎧 1、鉄剣 1 が出土しています。

袋状鉄斧は長さ11.8cm、幅 6.0cmの長方形です。鉄剣は長さ20.5cm刃部最大幅 2.1cm、鎧の長さ12.4cm、幅 1.0cmとともに基部分には木質が残っており、柄をつけていたと考えられます。



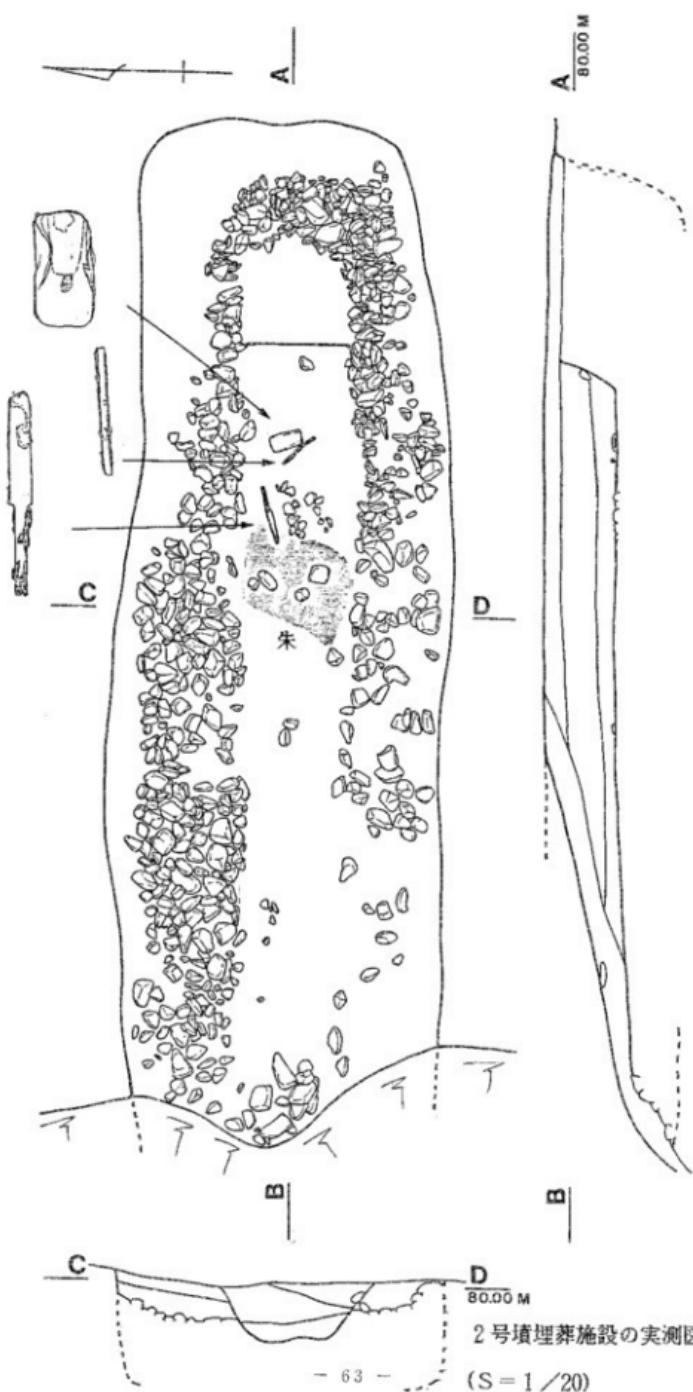
鉄剣



袋状鉄斧



鎧 (ヤリガンナ)

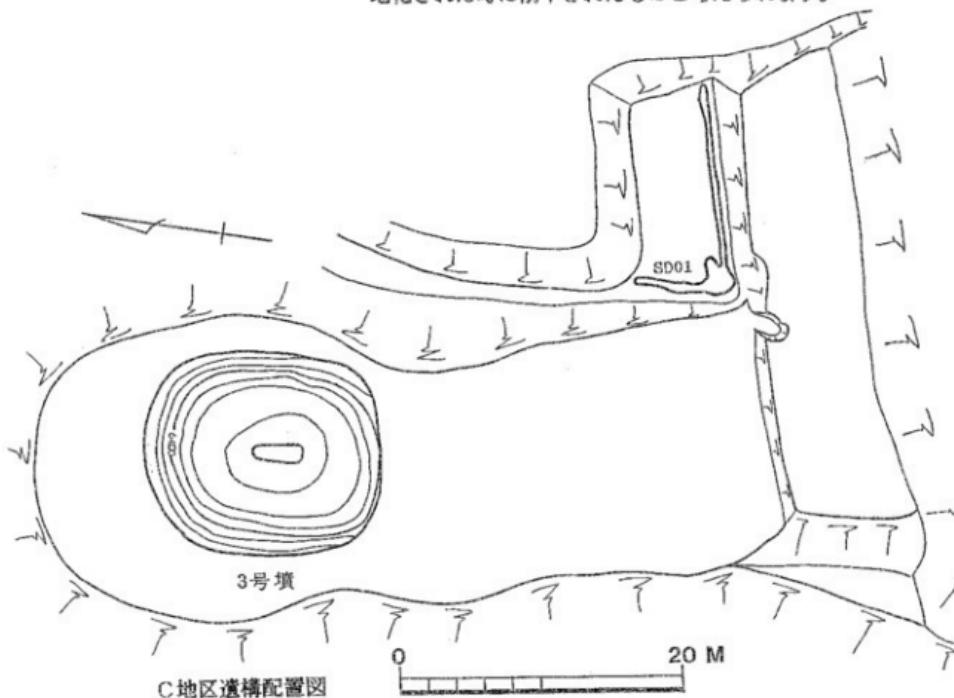


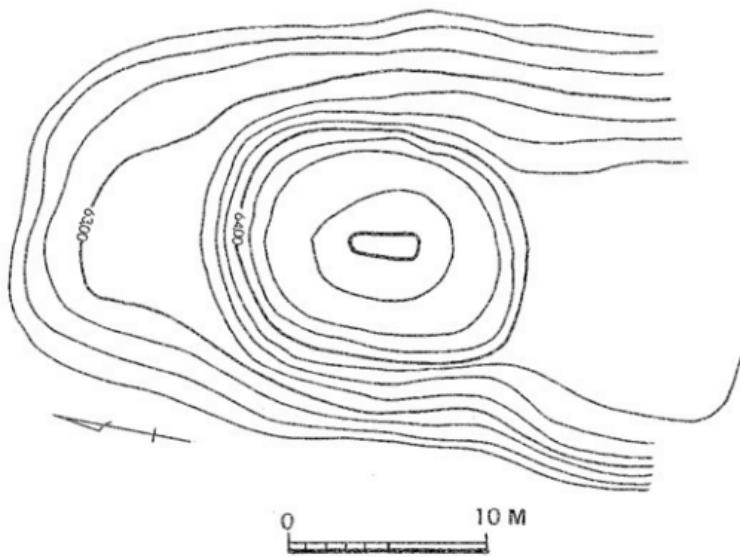
C 地 区  
3 号 墳

約 3,500m<sup>2</sup>を調査し、古墳1基、L字溝1条、土壙2基などを検出しました。3号墳は南北16.5m、東西13.5m、高さ 1.5mの長方形の古墳です。この古墳も上面が削平されており、埋葬施設の墓壙の下部しか残っていませんでした。遺物は削り取られた時になくなつたと考えられ出土しませんでした。墳丘の下半は地山で、その上に盛土をおこなっていました。墓壙は長さ 3.4m、幅 1.1m、深さ0.15mです。

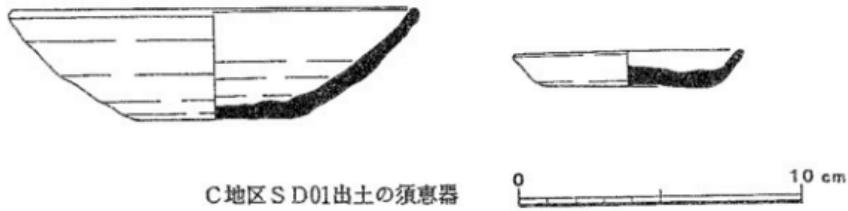
L 字 溝  
(SD01)

この3号墳の南側に尾根を削平し平坦にした部分があります。ここからは鎌倉時代の須恵器などが出土しましたが建物址はみつかりませんでした。しかし一番下の段にL字形の溝があり、鎌倉時代の碗と皿が出土しました。この溝の用途は不明です。これらのことから、この平坦面は、鎌倉時代に開墾されて本来は建物などが建てられていたのかもしれません、後世に畠地化された時に削平されたものと考えられます。





3号墳墳丘実測図



C地区SD01出土の須恵器

## 5まとめ

今回の調査によって3基の古墳を検出しました。1号墳は、埋葬施設が流失していたものの、その築造された時期は墳丘周辺から出土した遺物によって6世紀前半であることがわかりました。埋葬施設は、横穴式石室ではなく、箱形木棺直葬であったと考えられます。2号墳は、時期の決め手となる土器が出土していませ

んが、割竹形木棺を用いながらも鏡や玉類が出土していないことから、5世紀前半頃に築造されたと推定できます。3号墳は、埋葬施設からも墳丘からも遺物が出土しておらず、時期の確定は困難ですが、まったく須恵器が出土しないことから考えて、前期あるいは中期の古墳と考えられます。以上3基の古墳は、調査区の北西にある春日神社裏山古墳群と一緒に一つの古墳群を形成していたと推定されます。特に2号墳の割竹形木棺の墓壙内埋土に円礎を含むような構造例はあまりなく、埋葬施設の変遷を考える上で貴重な資料です。また、木棺から出土した袋状鉄斧は西神ニュータウン内の古墳からは初めての出土で、明石川流域でも天王山4号墳でその出土例が知られるだけです。

これまで、西神ニュータウン内で計29基の古墳を発掘調査しています。この内10基は、前・中期に属しています。

前期に属するものは、堅田神社1号墳、44地点古墳45地点古墳です。いずれも、割竹形木棺を埋葬施設とする方墳です。堅田神社1号墳からは、銅鏡、鉄剣、管王が出土しており、副葬品の内容からも、4世紀代であることがうかがえます。一方、明石川流域では、天王山4号墳（方墳）や、ひさご塚（前方後円墳）のように高い丘陵上に築かれた古墳もあります。

中期に属するものは、9地点古墳、30—1地点古墳、41地点古墳です。墳丘は、円形または楕円形で、割竹形木棺を埋葬施設としています。30—1地点古墳と41地点古墳は、55地点の2号墳と同様に、墓壙内に円礎を埋めたり、敷きつめている共通点があります。しかし、その円礎の埋め方は、3基とも異なっています。副葬品については、いずれの古墳も数点の鉄器だけを副葬していることも共通しており、前期古墳で出土している鏡や管王は出土していません。

一方、全国的にみるとこの時期は、前方後円墳が巨大化し、多種多量の副葬品をもつ古墳が目立って築かれています。明石川流域では王塚古墳、垂水区には五色塚古墳・小壺古墳があります。この様にこの時期は、古墳の階層（クラス）が多様化していたことがわかります。

残る19基は、後期（6世紀前半～中期）に属する円墳で、箱形木棺を埋葬施設とし、須恵器を副葬しています。そして、2～3基を最小単位として、尾根筋に群集しています。そのほとんどが円墳で、平野部に接する丘陵上ではなく、かなり平野部から離れた丘陵の高所に分布しています。今回の1号墳はこの時期に属し、同様の形態をとっています。この時期の代表的なまとめとして、31地点から33地点（平野町堅田）の8基の古墳があります。

この様に後期の群集する古墳群は、明石川流域では他に七曲り古墳群、慶明寺古墳群（居住・小山遺跡）などがあります。同じ後期でも、木棺直葬ではなく、横穴式石室を埋葬する古墳は、6世紀中頃から築かれています。これらは明石川上流域の雌岡山古墳群や、道心山古墳で群集しており、中流域の慶明寺古墳にも認められています。この様に見えてくると、弥生時代から継続している伝統的な木棺直葬が、6世紀中頃を境として横穴式石室にとってかわられ、これまで木棺直葬を築いていた下・中流域で、あまり古墳をつくらなくなっていることがわかります。

今回の調査によって、この丘陵に刻み残されていた当時の人々の生活の一端を明らかにすことができました。今後、私たちはこの文化財を活用し伝えていくことが課題として残されています。

| 時 代  | 西暦 | 墓 址                                                                                       | 集 落                                   |
|------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 弥生時代 | 前期 |                                                                                           | 吉田 遺 跡<br>新方 遺 跡<br>常本 遺 跡<br>西戸田 遺 跡 |
|      | 中期 | 0 新方 遺 跡<br>西神NT59地点<br>西神NT40地点                                                          | 今津 遺 跡<br>西神NT50~52, 65,<br>38, 89 地点 |
|      | 後期 |                                                                                           | 吉田南 遺 跡<br>高津橋岡遺 跡                    |
|      | 前期 | 300 天王山 4号墳<br>ひさご塚古墳<br>西神NT44, 45 地点<br>堅田神社 1号墳                                        | 出合 遺 跡                                |
| 古墳時代 | 中期 | 400 西神NT55-2, 41<br>30-1地点<br>王塚 古墳                                                       |                                       |
|      | 後期 | 500 西神NT55-1, 33-1<br>32-1, 33-2, 33-3A<br>七曲り 6号墳<br>西神33-3B, 38地点<br>天王山 3号墳<br>道心山 1号墳 | 西神NT62地点<br>黒田 遺 跡<br>高津橋岡遺 跡         |

調査について、神戸市文化財専門委員 野地脩左、小林行雄、檀上重光の三先生の御指導を得ました。また、神戸市開発局の協力を得ました。





森北町遺跡  
現地説明会資料



昭和 61 年 2 月 9 日  
神戸市教育委員会

調査について、神戸市文化財専門委員野地脩左、小林行雄、壇上重光の三先生の御指導を得ました。また、松下興産株式会社、株式会社大林組、甲南回生病院および地主の方々の御協力を得ました。

表紙説明：出土破鏡実測図

## 1 位置と環境

森北町遺跡は、神戸市東灘区森北町の丘陵裾部に拡がっている縄文時代の終末（今から約2300年前）から始まる遺跡です。



1 森北町遺跡 2 坂下山遺跡 3 森西町遺跡 4 山芦屋遺跡 5 金鳥山遺跡 6 保久良神社遺跡

7 本山遺跡 8 北青木遺跡 9 荒神山遺跡 10 赤塚山遺跡 11 郡家遺跡 1 2 住吉宮町遺跡

1 3 ヘボソ塚古墳 A 森綱 鋒 B 生駒綱 鋒 C 保久良神社 細戈 D 湧森綱 鋒

### 周辺の遺跡

#### 旧石器時代

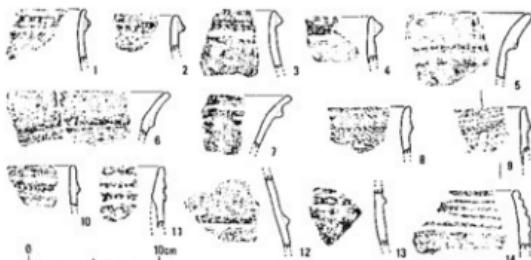
森北町遺跡の近くで、現在一番古い遺跡は、芦屋市の朝日ヶ丘遺跡で旧石器時代の石器が出土しています。

## 縄文時代

次に古い遺跡は、同じく芦屋市の山芦屋遺跡で、縄文時代前期の土器が出土しています。

縄文時代後・晚期の遺物が出土した神戸市本庄町遺跡・神戸市北青木遺跡、晚期の土器が出土した神戸市本山遺跡がそれに続く遺跡としてあげられます。

この時代の遺跡から出土した遺物は少なく、当時の生活の様子があまり明らかではありませんが、狩猟や採集などをして生活していたものと思われます。



本山遺跡出土縄紋土器図

## 弥生時代

日本列島で農耕が始まられ、青銅や鉄でいろいろな道具が作られるようになる弥生時代は、前期・中期・後期と大きく3時期に分けられています。

### 前期

この周辺で前期の遺物が出土した遺跡は、北青木遺跡などがあります。

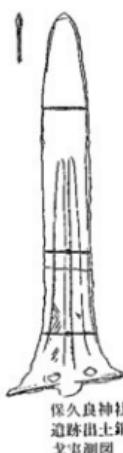
### 中期

前期の遺跡の多くが初期の水稻農耕に都合のよい低湿地に立地しているのとは異なり、次の中期になると、開拓の報はより高い土地にも入れられます。本山遺跡、森西町遺跡などの遺跡は、この時期のものです。

また、中期の遺跡の中には、標高 100m～200m 近い高所にある村もあります。この森北町遺跡の北の山頂尾根にあった坂下山遺跡は、このような村の一つで土器・石器が出土しています。東山遺跡・金

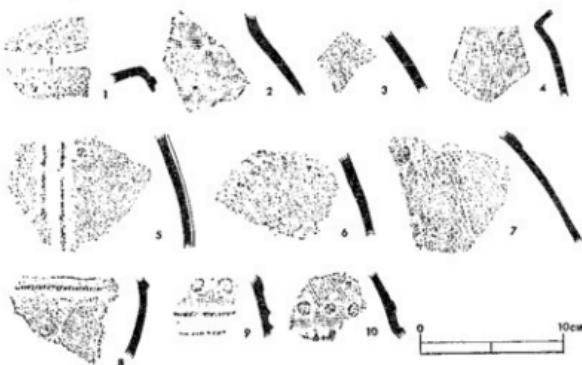
鳥山遺跡・保久良神社遺跡も同じ高地の村で、特に保久良神社遺跡からは、銅戈（戈は、もと古代中国の武器、日本では、多く祭に使用するために作られた）も出土しています。銅戈と共に祭の道具と考えられるものに銅鐸があります。この近くでは、現在、甲南女子大学となっている所で1口「森銅鐸」が、神戸女子薬科大学構内から1口「生駒銅鐸」が出土しています。

#### 後期



保久良神社  
遺跡出土銅  
戈実測図

芦屋市史より



坂下山遺跡出土土器拓影（藤川祐作所蔵）芦屋市史より

#### 古墳時代

次の古墳時代は、各地でその土地の有力者が死後の安眠を得るために、さらに自らの権力を示す目的で円形や方形、前方後円形などの大きな盛土をした墓をつくる時代です。

古墳時代も前期（1700～1600年前を中心とする時期）、中期（1600～1500年前）、後期（1500～1400年前）とわけられています。

前期

前期の古墳では、ここより西南約1.5Km、国鉄揖津本山駅の北側にあった前方後円墳のヘボソ塚古墳が有名です。江戸時代の本『揖津名所図絵』にも書かれたこの古墳からは、明治になって中国製の銅鏡6、硬玉製勾玉1、コハク製勾玉1、コハク製棗玉1、碧玉製管玉13、ガラス製小玉120、硬玉製小玉1と碧玉製石剣2という豊富な死者に副えられた遺物が出土しました。



ヘボソ塚出土鏡拓影・富岡謙蔵「古鏡の研究」より

中期

中期の古墳ははっきりとわかりませんが、この頃の集落は、西方約3kmにある郡家遺跡で竪穴住居址などが発掘されています。

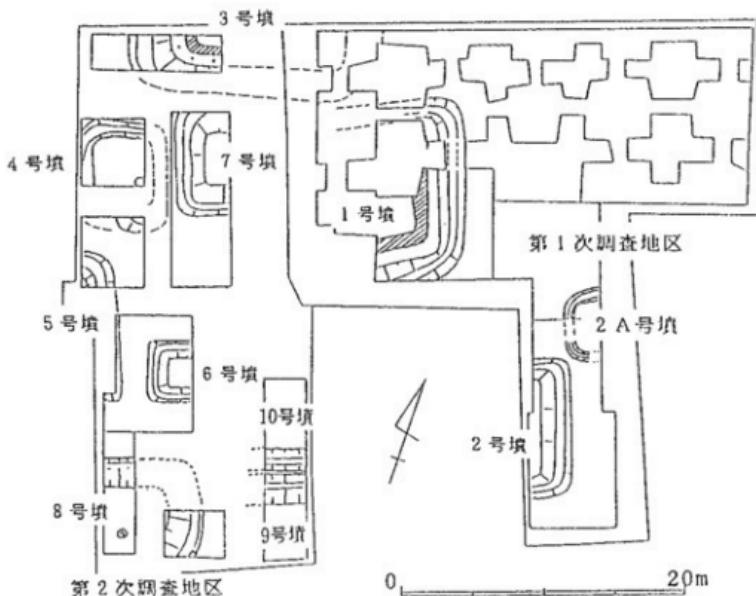
後期

後期になると、平地や山麓の斜面に多くの古墳が作られるようになります。昨年調査した住吉宮町遺跡では、計11基の方墳が群集していました。その中には、墳丘の斜面に石を葺いたものや埴輪を立てならべたものもありました。これらは、後期でも前半のものです。

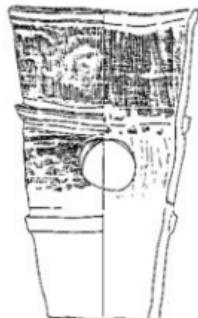
山麓斜面に巨石で築いた石室を埋葬施設とする古墳は、後期でも後半のものです。

かっては、かなり多くの古墳が、この周辺にも群集していましたが、ほとんど壊されてしまいました。

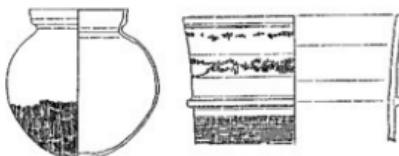
現在、近くでは、神戸女子薬科大学構内に1基残っているだけです。



住吉宮町遺跡遺構全体図



8号墳の円筒埴輪



1号墳出土の土師器 変形土器 円筒埴輪

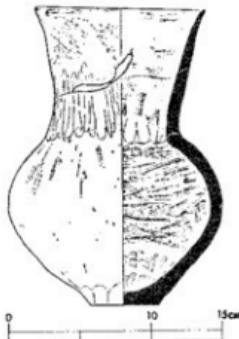
## 2 調査に至る経過

昭和60年5月に森北町共同住宅建設に伴い試掘調査を行った結果、弥生時代と考えられる遺物と遺物を多量に含む層（包含層）が見られました。このため、新しく建てられる建物で破壊される範囲（約500m<sup>2</sup>）について、発掘調査を昭和60年12月より行ってきました。

## 3 過去の調査

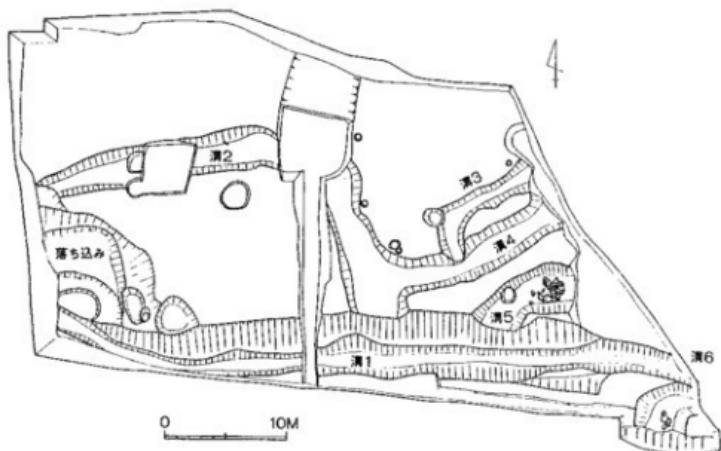
今回の調査地より南へ約100mの松風荘内で昭和39年、浄化槽の建設の時、多くの遺物が出土しています。

また、東へ300mの日本放送協会東灘世帯寮新築工事に先立つ昭和57年5月～7月の発掘調査では、弥生時代中期の溝5条、鎌倉時代（約800年前）の溝1条が見つかりました。

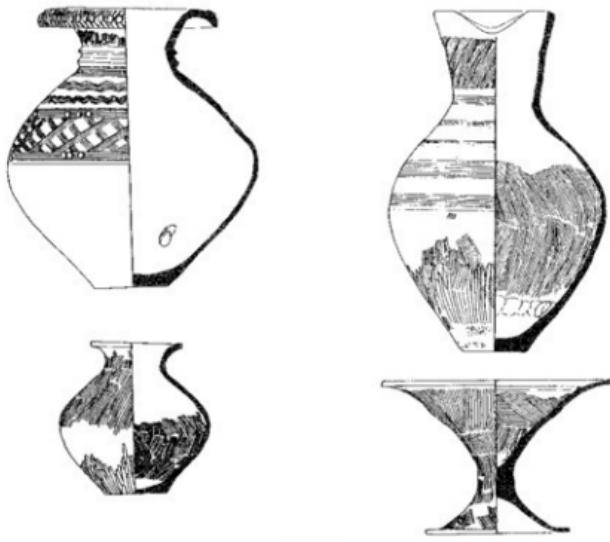


昭和39年森北町遺跡出土土器図

芦屋市史より



昭和57年度森北町遺跡遺構図



土器実測図

#### 4 調査の概要

縄文時代

今回の調査では、はっきりとした遺構としては古墳時代中期の竪穴住居址が2棟、発掘されたのみですが、調査地東側でみつかった北東から南西へ流れた川の跡から縄文時代晚期、弥生時代末から古墳時代初め、古墳時代中期の遺物が大量に出土しました。

現在までのところ1片だけですが、縄文時代晚期の深鉢形土器の破片が川の中から出土しました。

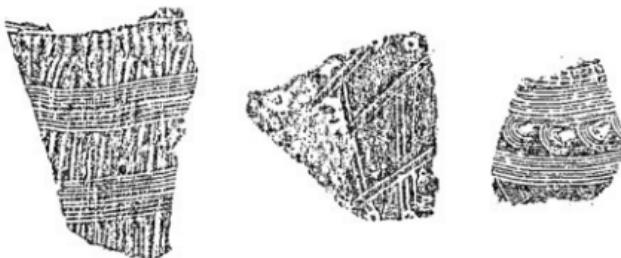


縄文土器拓影

弥生時代

弥生時代の遺構はありませんでしたが、遺物は河川の中から中期中頃の土器、中期後半の土器と共にサヌカイト（石の名前）製の打製石鎌や磨製の大型蛤刃石斧（ふとがたはまぐりばせきふ）が2点出土しました。

また、弥生時代末から古墳時代初めにかけての土器は、河川の中や竪穴住居址1・2の埋土や住居址周辺でも出土しています。



弥生中期土器拓影



弥生終末～古墳初頭土器実測図 S=1:4

### 古墳時代中期

#### 竪穴住居址 1

竪穴住居址 1 は地面を掘り下げ、中に柱を立てて、屋根をかぶせるような簡単な構造だったと思われます。規模は、東西約 6.8m を測りますが、南半分が壊されており南北方向の規模はわかりません。この住居址は、壁際に巡らす溝が内側にもう 1 本あり、拡張されていることがわかりました。

#### 竪穴住居址 2

竪穴住居址 2 は、住居址 1 よりも先に建てられたものですが、遺物が少なかったので、どのくらい前のものか今のところはっきりしません。

川の中から出土した土器の大部分は、この時期のものです。

この時期の土器は、窯で焼かない赤色の素焼の土器（土師器＝はじき）と朝鮮半島南部の人々が海を渡りわが国に作る技術を伝えた、窯で焼いた灰色の土器（須恵器＝すえき）の 2 種類があります。

#### 土師器

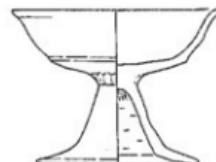
土師器には、食物を煮るための甕（かめ）、蒸すための甑（こしき）、盛るための高环（たかつき）、貯蔵のための壺（つぼ）などや祭のために作られたのではないかと言われるミニチュア土器などが出土しています。

#### 須恵器

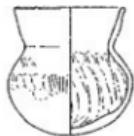
一方、須恵器には、貯蔵用の甕、高环、环（つき）などがありました。



型



高坏

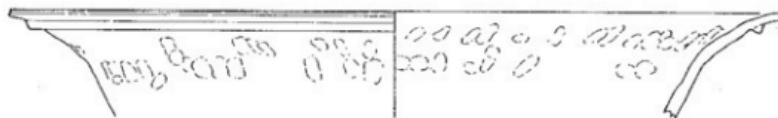


小型丸底



ミニチュア土器

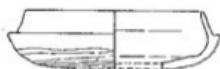
### 土師器



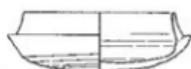
型



型



环身



环身



环盖

### 須恵器

森北町遺跡出土土器実測図 S=1:4

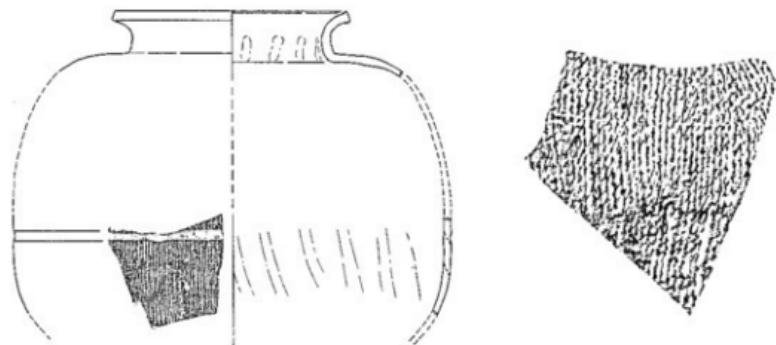
### 韓式系土器

わが国で出土する須恵器や土師器とよく似た土器ですが、それとは作り方・形・使われている粘土などが異なるものがあります。これは、朝鮮半島南部の遺跡から出土する土器と共に通する所が多いため、韓式系土器と呼んでいます。

この韓式系土器は、朝鮮半島からもたらされたものや、この土器の影響を受けてわが国で作られたものもあると考えられています。

北九州や近畿では、最近、多く発見されるようになってきましたが、県下では数少ない例の一つとしてあげられます。

今回、出土したものは、古墳時代中期のものと考えています。



河川出土

S = 1 : 4

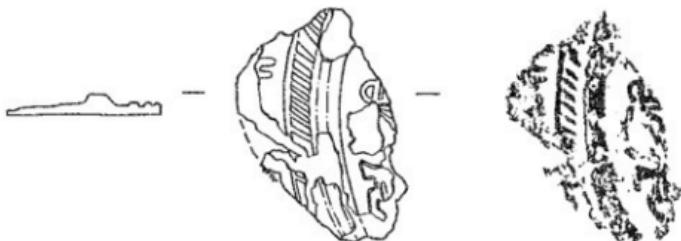
豊穴住居址 1 出土

### 韓式系土器

## 鏡片

豊穴住居址2のやや北で包含層の上面で断面を研磨した銅鏡の破片が出土しました。包含層の土器は、細片が多く銅鏡が使われていた時代を限定することは難しいのですが弥生時代後期から古墳時代中期までのある期間と考えられます。

研磨された破鏡の出土例は、加古郡播磨町の大中（おおなか）遺跡の住居址から出土したものと豊岡市中ノ郷の深谷古墳群1号墳から出土したものが、県下では知られています。



出土破鏡実測図 S=1:1 拓影

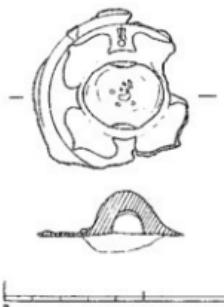
大中遺跡出土のものは、破片に2つの小さな穴があけられ、深谷古墳群出土のものは、紐（ちゅう・紐を通す部分）の部分でいずれもつり下げられるようになっています。

今回出土の鏡片は、つり下げられるように成っていないことが上の2例と異なりますが、さらに大きな違いは、大中遺跡・深谷古墳群出土の鏡が後漢時代（紀元後25～220年）のものであるのに対し、これがさらに古い前漢時代（紀元前206～紀元後7年）に作られたものであることです。

前漢鏡はわが国では、主に北九州の弥生時代中期に有力者の墓の副葬品として多く出土していますが、近畿では、最近、大阪市平野区の瓜破北（うりわりきた）遺跡で同じく破片で発見されたものが確実な唯一の出土例です。



大中遺跡出土破鏡



中ノ郷・深谷出土破鏡



瓜破北遺跡出土の前漢鏡片(1/2)

考古学雑誌 67-2

森北町遺跡で出土した鏡は、おそらく下の図の鏡  
とほぼ同じものの一部と考えられます。



福岡県 立岩遺跡10号甕棺出土鏡

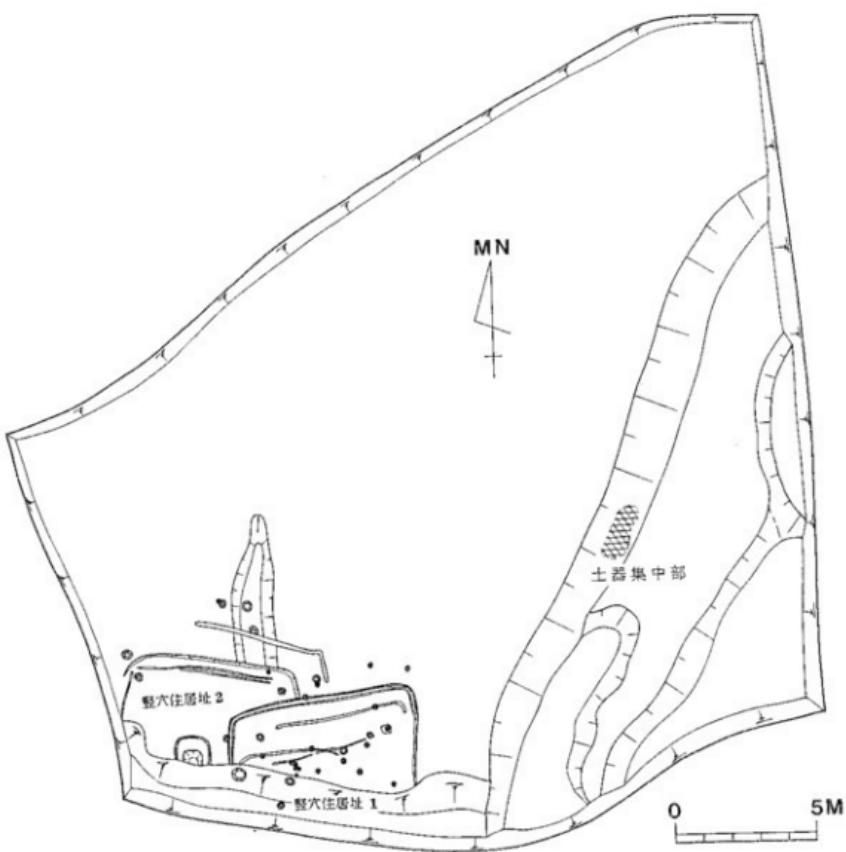
## 5　まとめ

今回の調査では、遺構としては古墳時代中期の竪穴住居址が2棟確認されただけですが、東側を流れる川の中から縄文時代～古墳時代までの多くの土器や石器が出土しました。これらの資料から2,000年以上前からこの辺りに人々が住み着き生活をしていたことがわかりました。

そして、弥生時代～古墳時代には、中国からもたらされた、当時としては貴重な鏡を手にするまでになりました。おそらく、この頃この土地に住み着いた人々はかなり権力・経済力を持ち得たのでしょう。中国製の鏡を多く副葬していたヘボソ塚の主と何か関係があった人々だったのかも知れません。

古墳時代中期の竪穴住居址の発見は、この土地に住み着いた人々の当時の生活の様子を知る上で大変重要なことです。今回は2棟が発見されただけですが、この周囲にはさらに多くの住居址が埋もれているものと考えられます。

さらに、韓式系土器が、出土したことは、朝鮮半島の人々とも直接的、または、間接的にかかわりのあった人々がここに住んでいたことを想像させます



森北町遺跡調査地全体図 S=1:200







五色塚古墳

整備完成 10 周年記念

—— 市内の埴輪展 ——

昭和 60 年 1 月

神戸市教育委員会



## ごあいさつ

神戸市では、国の補助金を得て昭和40年度から、史跡 五色塚古墳の整備に着手しました。

10年の歳月と2億5200万円をかけて完成し、今年で10周年を迎えました。

近年、各地で古墳の整備が、行われるようになってきましたが、五色塚古墳は、古墳整備のモデル例として有名であり、全国各地から年間5万人を越える見学者を迎えてます。

今回、整備事業完成10周年を記念して、市内から出土した埴輪を一堂に展示する『市内出土の埴輪展』と全国各地で整備された主な古墳の写真を集めた『パネル展』を併せて開催するものです。

11月1日から文化財保護強調月間がはじまりますが、この展覧会が、文化財へのより一層の感心と理解を深めて戴くのに役立てば幸いです。

最後になりましたが、今回の展示に御協力頂きました関係機関に深く感謝いたします。

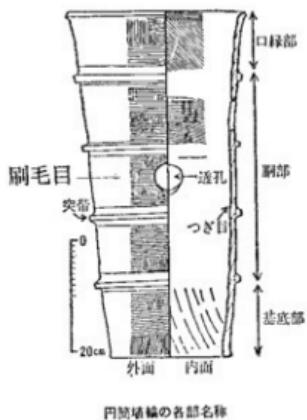
神戸市教育委員会

# 市内の埴輪展

## 1はじめに

神戸市内では、これまで43箇所の埴輪の出土地が知られています。今年は、ちょうど五色塚古墳が整備されて10周年にあたり、それを記念して、神戸市内の埴輪を一堂に集め、埴輪を通して五色塚古墳の時代的な位置を考えてみようという主旨で、今回の展示を企画しました。

## 2 墓輪の名称と種類



円筒埴輪の各部名称

埴輪には、円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、形象埴輪があります。円筒埴輪は、埴輪の中では最も普遍的にみられるものです。形は円筒形をしており、外面は数本の突帯をめぐらし、器面を刷毛<sup>ハケ</sup>で調整し、突帯と突帯の間に三角形、長方形、円形の透孔<sup>すりあな</sup>とよび孔があけられています。時代によって形が移りかわり、時代を知る手がかりになります。

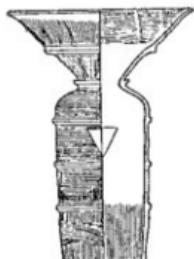
### 東洋彫形円筒埴輪

朝顔形円筒埴輪は、器台にのせる臺をかたどった埴輪で、円筒埴輪の上端がすぼまってから朝顔の花のように口縁部が開くところから、この名がつけられています。

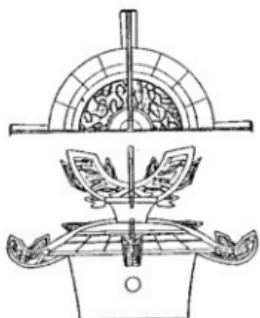
円筒埴輪数本ごとに1本の割合で古墳に立て並べられます。

### 形象埴輪

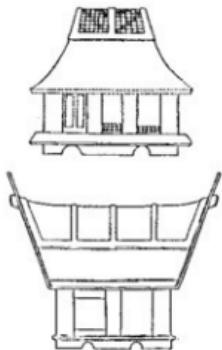
形象埴輪は、いろいろな器材や家、人物、動物を表現した埴輪を総称してこう呼びます。



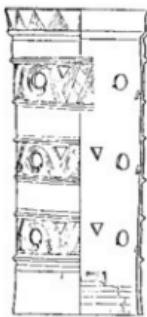
朝顔形円筒埴輪



衣蓋



### 3 墓輪の変遷



円筒埴輪1期

器財形埴輪には、大刀、盾、鞍（矢を入れる容器）、衣蓋（貴人にさしかかる縄を張った長い柄の蓋）、椅子、甲、かぶと、鞆（弓を射る際に反転する弦から手を守る防具）、さしば（長い柄のついた扇）があります。神戸市内では、柿谷1号墳から盾と思われる埴輪が出土している他、出合龜塚古墳から大刀形埴輪が出土しています。

家形埴輪には、切妻造、寄棟造、入母屋造りの家があります。神戸市内では、五色塚古墳、小壺古墳、保養所裏山古墳、柿谷1号墳、出合龜塚古墳の6遺跡から出土しています。

人物埴輪には、武人や農夫、巫女、盛装した貴人などがあります。市内では、天王山3号墳、鬼神山周辺から巫女像が出土しています。

動物埴輪には、馬、牛、猪、鹿、水鳥、鶴、犬、猿などがあります。

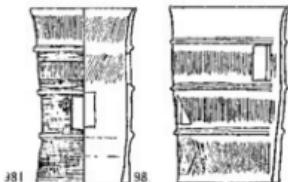
埴輪は弥生時代の後期に墓におかれた壺と器台が仮器化され、形式化され生まれたと考えられています。

（第Ⅰ期、3世紀～4世紀前半）

古墳が築造されるようになって、墳丘の周囲に埴輪がめぐらされるようになりますが、初期の埴輪は、器台の形をとどめていたり、器台にのせた壺の形をかたどったり、円筒埴輪の平面形が橢円形であったりするなどの特徴をもっています。

（第Ⅱ期、4世紀中頃～後半）

神戸市内では、この時期から埴輪の樹立が始まります。白水瓢塚古墳や処女塚古墳がこの時期の古墳です。

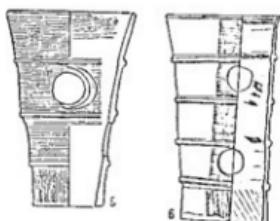


円筒埴輪III期

次の時期になると埴輪の定形化が始まり、器台の痕跡をとどめるような埴輪はなくなります。外面は緩に刷毛目を施した後、横方向の刷毛目が加わります。

(第Ⅲ期、4世紀末～5世紀前半)

神戸市内でこの時期の遺跡としては、五色塚古墳、小臺古墳、舞子公園遺跡、歌敷山東古墳・西古墳、念佛山古墳などがあります。

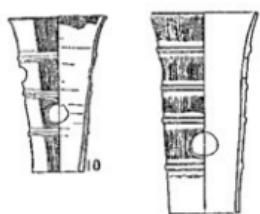


円筒埴輪IV期

次の時期には窯で焼成したと考えられる灰色の硬く焼きしまった埴輪（須恵質埴輪とよびます）が出現します。外面は以前として横刷毛ですが、透孔の形が、これまでの長方形・三角形・円形・半円形から円形に変わります。

(第Ⅳ期、5世紀中～後半)

神戸市内でこの時期に属する遺跡としては、玉津王塚古墳や吉田南遺跡が挙げられます。



円筒埴輪V期

次の時期になると埴輪の小形化が進んで、高さ45cm前後、口径25cm、底径15cm前後のものになります。

(第Ⅴ期、5世紀末～6世紀前半)

神戸市内で埴輪を出土する古墳の多くがこの時期に属します。天王山3号墳、鬼神山古墳、中村古墳群、池谷古墳、柿谷1号墳、西神第29号墳、松本古墳などがこの時期のものです。

(時期区分は春成秀爾氏の編年「考古資料の見方『遺物編』」1977による)

#### 4 市内の代表的な埴輪出土遺跡

##### 史跡 五色塚古墳 (垂水区五色山4丁目)

明石海峡を望む丘陵上に築造された兵庫県下最大の古墳です。全長 194m、後円部直径 125m、前方部幅 81m の前方後円墳で、墳丘には、石が葺かれ、埴輪がたてならべられています。

葺石に使用された石は、223万個・2.750屯、たてられていた埴輪は、2.200本と推定されます。

五色塚古墳にたてられていた埴輪の種類は、

- 1 円筒埴輪
- 2 踏付円筒埴輪
- 3 踏付朝顔形円筒埴輪
- 4 衣蓋形埴輪
- 5 盾形埴輪

の5種類が発掘調査によって確認されています。

たてられていた埴輪は、踏付円筒埴輪が一番多く使用されています。踏付円筒埴輪は、高さ 110~120cm、口縁径約40cm、底径約30cmで4本の突帯をめぐらせてあります。1段目の突帯から4段目の突帯まで踏を付け、突帯で区切られた下から1段目、2段目、4段目に半円形・円形・長方形・三角形の透孔が開けられています。

口縁は、やや外へ開くものと、真っ直ぐに立ち上がるものの2種類があります。外面は、縦方向のこまかい刷毛目を施しています。



## 史跡 小壺古墳（垂水区五色山4丁目）

小壺古墳は、五色塚古墳のすぐ西隣に位置する直径67mの兵庫県下最大の円墳です。墳丘は2段の斜面に造られ、小段と墳頂に埴輪が並べられていましたが、斜面に石は葺かれていませんでした。小壺古墳から出土した埴輪には、円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪・家形埴輪があります。円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪は、五色塚古墳出土の埴輪と変わりありません。

家形埴輪は、3点出土しています。その内1点は、長さ60cm、残存高12cm、寄棟造り建物の屋根と壁の部分の埴輪です。他の2点は、切妻造りの倉庫風建物の屋根と寄棟造り建物の屋根の部分です。おそらく、古墳に葬られた豪族が住んでいた家を表現したものと思われます。

## 舞子公園遺跡（垂水区東舞子町）

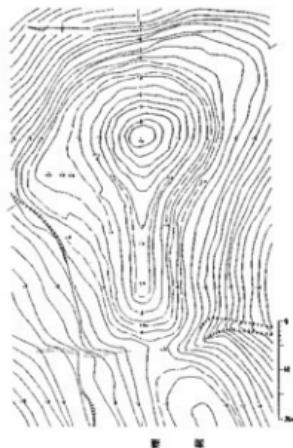
五色塚古墳の西方約1kmに舞子公園があります。この公園内から埴輪円筒棺が3基発見されています。3基以外にも存在していたと言われ、円筒棺が数多く埋められた共同墓地ではないかと考えられています。

発見された埴輪棺のうち1基は、朝顔形埴輪の口縁部を打ち欠いて作ったと思われるもので、長さ1.2m、直径48cm、厚さ0.9~1.9cmです。外面には、6本の突帯をめぐらし、下から3段目に円形の透孔、4段目と6段目に長方形の透孔を施しています。棺内からは、40歳代の男性の人骨が出土しました。

埋められた時期は、五色塚古墳が造られた時期とそれほどかわらないころと考えられます。

しらみず ひさこづか

## 白水瓢塚古墳（西区伊川谷町潤和字白水）



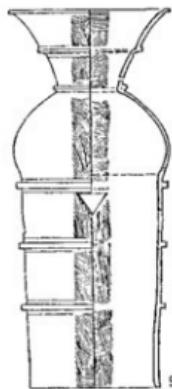
明石川の支流、伊川右岸の標高62mの丘陵上に立地する古墳で、墳頂からは、淡路島や瀬戸内海に浮かぶ家島諸島を望むことが出来ます。古墳は、全長60m、後円部直径32m、前方部16mで、幅の狭い前方部を西に向けて造られた前方後円墳です。墳丘上から円筒埴輪が出土しているほか、昭和2年の直良信夫博士の調査で、古墳の周囲に百基もの埴輪棺があったと報告されています。

この古墳から出土したと言われている円筒埴輪は、残存高60cm、長径48cm、短径31cmの楕円形です。外面は、刷毛目を施し、1段おきに三角形の透孔を配しています。

瓢塚古墳の周囲から出土した埴輪棺だと言われている埴輪は、朝顔形円筒埴輪で、底径35cm、残存高81cmです。3本の突帯を巡らせ、肩部は、器台に壺を載せた状態をかたどっています。

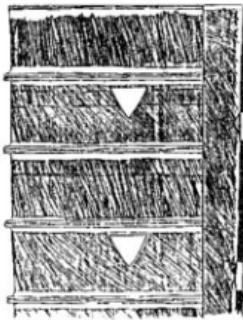
外面は、縦方向の刷毛目を施し、下から3段目に三角形の透孔があります。

このように、白水瓢塚古墳の埴輪は古い様相をとどめており、神戸市内出土の埴輪の中では最古に位置づけられるものです

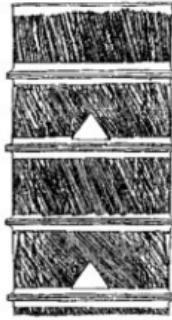


埴輪棺

0 50cm



白水瓢塚古墳出土の埴輪円筒



白水瓢塚古墳出土の埴輪円筒

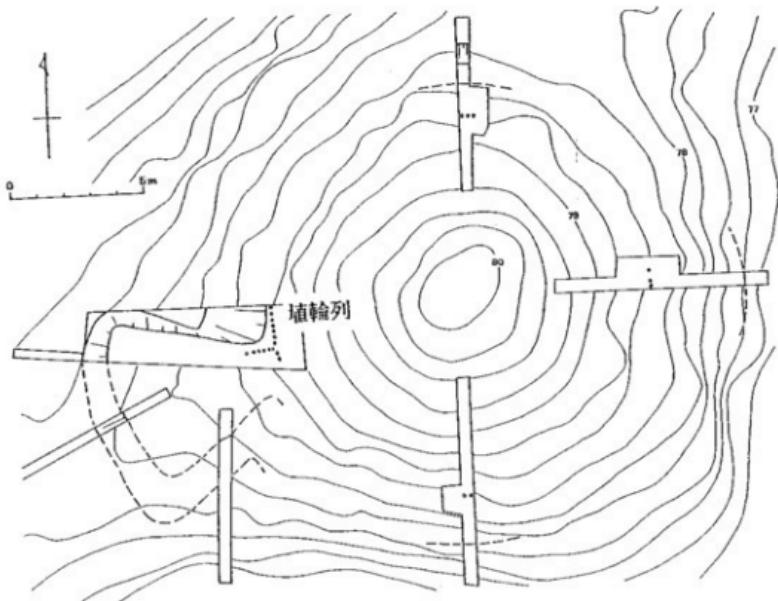
0 20 40cm

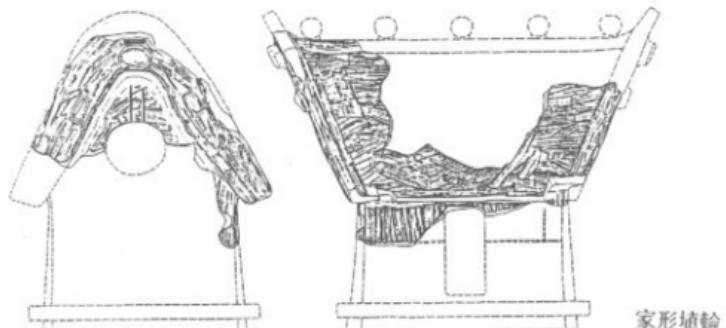
## 天王山 3 号墳 (西区伊川谷町別府)

天王山古墳群は、明石川の支流、伊川の右岸の丘陵上に存在する5基の古墳からなる古墳群です。この内の天王山3号墳は、直径約20m、高さ約2.5m、二段築成の古墳で、西側に長さ約5m、最大幅約10mの扇状に開いた造出しを持つ帆立貝式古墳です。この天王山3号墳の1段目の小段と造出し部の上面には、1mに5本の割合で円筒埴輪が巡らされていました。この円筒埴輪は底部の直徑が10cm～15cmの小型のものです。

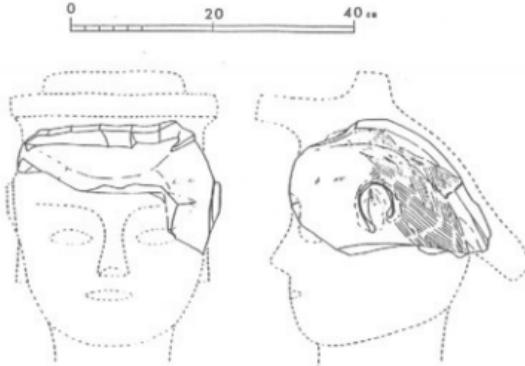
造出し部の北側斜面には埴輪片が多数落下していましたが、その中に人物・馬・盾などの形象埴輪が含まれていました。天王山古墳群中では、この3号墳の他に、そのすぐ北側にある円墳の1号墳と2号墳にも円筒埴輪が巡らされていたようです。

天王山第3号墳平面図

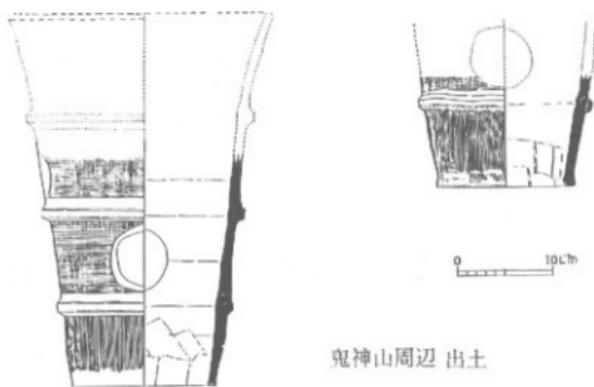




家形埴輪



人物埴輪



鬼神山周辺出土

## 柿谷 1 号墳（西区伊川谷町小寺字柿谷）

伊川上流域左岸の標高73mの丘陵上に立地している古墳で、直徑14m、高さ3mの円墳です。

古墳からは、伊川中流域、明石平野の中心部、播磨灘が望めます。墳丘の裾に埴輪が巡らされて居たようですが、山崩れによって墳丘が崩壊しており、埴輪列の確認できたところは、2ヶ所です。検出できた埴輪は、12本でした。

墳丘斜面には、石を葺いていなかったようです。

埋葬施設も山崩れによって削り取られていました。検出することが出来た埋葬施設は、長さ3m、幅1.5mの硯床でした。

埋葬施設から出土した遺物は、鉄劍、鉄鏃です。

1号墳から出土した埴輪は、

- 1 円筒埴輪
- 2 朝顔形埴輪
- 3 形象埴輪

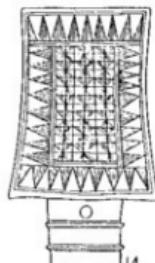
です。

円筒埴輪は、底径15cm、口徑25cm前後、高さ40cmで3本の突帯をめぐらせてています。突帯で区切られた下から2段目、3段目に円形の透孔を穿っています。

外面は、縦方向の刷毛目で調整し、基部に削りを施しています。

形象埴輪には、人物埴輪・盾形埴輪・家形埴輪などが見られます。これらの埴輪は、すべて破片です。

埴輪の中には、須恵質埴輪と呼ばれる硬く焼きしまった埴輪も見られます。



盾形埴輪



## 吉田南遺跡（西区森友2丁目）

吉田南遺跡は、明石川下流右岸の沖積地に立地する弥生時代から鎌倉時代に至る集落址・官衙址等の複合遺跡です。古墳時代の遺構は、東部・西部・北部の微高地を中心に、古墳時代前期から後期にかけての住居址や溝等が多数見つかっています。その内、南北に流れる長さ約60m、幅1.3m、深さ約0.9mの溝中より5本の円筒埴輪が出土しています。この5本の埴輪の内、4本は溝と同じ南北方向に、1本は溝と直交して東西の方向に、それぞれ横倒しになった状態で出土しました。5本の埴輪はほぼ同型で、大きさは高さ40cm、口径約25cm、底径約17cmです。胴部には3本の突帯を巡らし、1段目と2段目には円形の透孔をあけています。集落址の溝中に、なぜ円筒埴輪が横倒しにして置かれていたかは、わかっていません。

## 史跡 処女塚古墳（東灘区御影塚町2丁目）

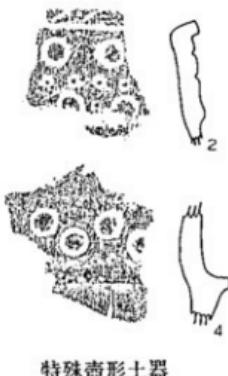
処女塚古墳は、石屋川右岸の砂堆状の微高地に立地し、現在の海岸線までの距離は300mで、海に近いところに造られた古墳です。

古くから悲恋の物語が伝えられていたため、多くの人々に知られた古墳です。

大正11年3月8日国の史跡に指定されました。

昭和54年度から国の補助金を得て古墳の整備を開始し、昭和59年度で整備を完成了。

整備に伴う発掘調査の結果、市内唯一の前方後方墳（全長70m）であることがわかりました。



特殊壺形土器

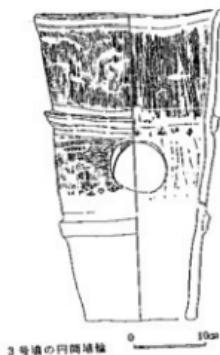
埋葬施設は、調査を実施しませんでしたので、詳細は不明です。東側くびれ部から箱式石棺が一基発見されました。遺物は、出土しませんでした。

姫女塚古墳から出土した遺物は、土器片が墳丘斜面の流土中から見つかっています。出土した土器の種類は、特殊壺形土器・底部を穿孔した二重口縁壺形土器・鼓形器台などがあります。

特殊壺形土器は、二重口縁で、口径35cmの大型品です。口縁部と肩部を半截竹管のスタンプ文で飾っています。

これらの土器は、墳頂や小段に置かれていたよう、埴輪と同じ意味をもつものと考えられます。

### 住吉宮町遺跡 3号墳 (東灘区住吉宮町)



住吉宮町遺跡は、六甲山南麓の緩斜状地上に立地する遺跡です。当遺跡からは、古墳時代後期の古墳11基が発見されています。そのうち、埴輪と葺石を持った古墳は3号墳だけでした。3号墳は一辺約13mの方墳と推定され、周溝が巡っています。墳丘は2段築成で、それぞれの墳丘斜面には葺石が認められます。円筒埴輪は墳丘の1段目と2段目の間に作られた小段で3本見つかりました。埴輪はそれぞれ1.4m間隔で、第1段の突堤直下まで埋められています。3本のうち、中央の1本は割れていますが、古墳を作った当時そのままの姿でみつかりました。

円筒埴輪は口径25cm、底径17.5cm、高さ45cmのものです。2条の突堤によって3段に分けられ、第2段には円形の透孔が2方向にあけられています。外面には縦方向の刷毛目調整を行った後、あまり突出しない断

面不整形の突帯をヨコナデで貼り付けています。内面は指によるオサエやナデがみられます。口縁部はヨコナデによって丸く仕上げられ、外面の端部直下には1条の沈線が巡ります。

## 5 おわりに

今回の展示は、多くの方々の御協力を得て、開催することができました。特に出展に御協力をいただいた関係機関には厚く感謝致します。

今回の展示に御協力をいただいた方、並びに機関  
(敬称略)

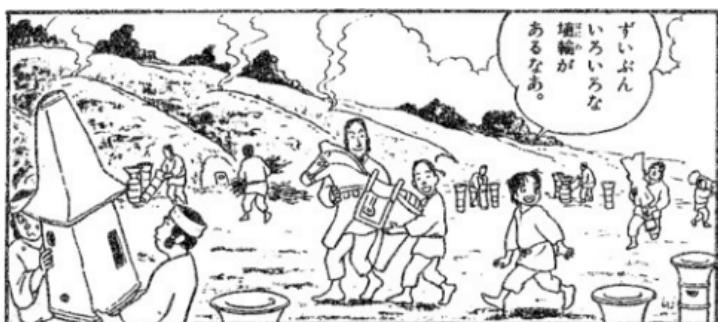
伊川谷中学校

押部谷中学校

瀬戸内考古学研究所

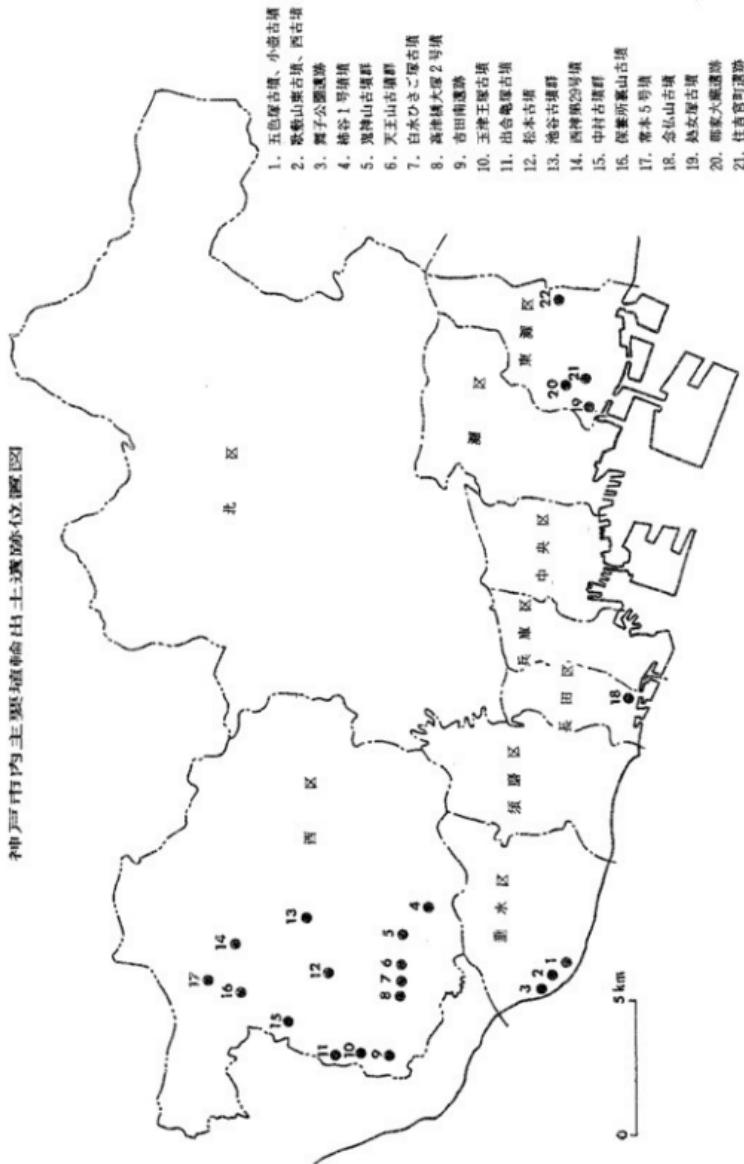
兵庫県立歴史博物館

真野 修



(小学館『少年少女 人物日本の歴史』1984年より)

神戸市内主要古墳群分布図



## 神戸市内古墳出土地 — 編 —

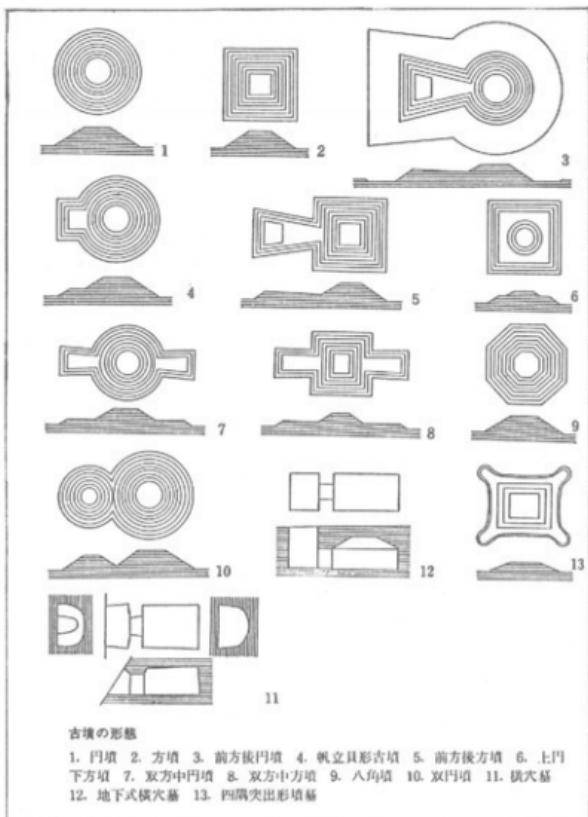
| 番号 | 通 路 名      | 所 在 地        | 種 類 | 墓 期 | 出 土 器 物      | 所 藏 者  | 今後の 展示品 | 備 考         |
|----|------------|--------------|-----|-----|--------------|--------|---------|-------------|
| 1  | 五色塚古墳      | 神戸市垂水区五色山4丁目 | 古 墳 | 中期  | ○ ○ 鏡面<br>円筒 | 神戸市    | 京大      | ◎ 参考文献11    |
| 2  | 小堀古墳       | 同 上          | 古 墳 | 中期  | ○ ○ 家        | 同 上    | 同 上     | ◎ 参考文献11    |
| 3  | 歌敷山古墳      | 神戸市垂水区五色山7丁目 | 古 墳 | 中期  | ○ きぬがさ       | 京大     | 同 上     | 参考文献3       |
| 4  | 歌敷山西古墳     | 同 上          | 古 墳 | 中期  | ○ きぬがさ       | 同 上    | 同 上     | 参考文献3       |
| 5  | 舞子公園跡      | 神戸市垂水区垂琴子町   | 古 墳 | 中期  | ○ ○ 家        | 神戸市    | 関学大     | 参考文献5・9     |
| 6  | 白木ひさご原古墳   | 神戸市西区伊川谷町原相  | 古 墳 | 前期  | ○ ○          | 押部谷中   | 筑波大     | ◎ 参考文献10・14 |
| 7  | ひきご原古墳群2号墳 | 同 上          | 古 墳 | 後期  | ○            | 立候史博物館 |         |             |
| 8  | 天王山1号墳     | 神戸市西区伊川谷野野原  | 古 墳 | 後期  | ○            | 神戸市    | 同 上     | 参考文献8       |
| 9  | 天王山2号墳     | 同 上          | 古 墳 | 後期  | ○            | 神戸市    | 同 上     | 参考文献8       |
| 10 | 天王山3号墳     | 同 上          | 古 墳 | 後期  | ○            | 神戸市    | 同 上     | 参考文献6       |
| 11 | 箕谷山古墳      | 同 上          | 古 墳 | 後期  | ○            | 伊川谷中   | 同 上     | 参考文献14      |
| 12 | 箕谷山周辺      | 同 上          | 古 墳 | 後期  | ○            | 神戸市    | 同 上     | 参考文献16      |
| 13 | 轟谷1号墳      | 同 上          | 古 墳 | 後期  | ○ ○ 家        | 神戸市    | 同 上     | 参考文献16      |

| 番号 | 調査地名     | 所 在 地        | 種類  | 時 期 | 出 土 墓 棚    | 所 藏 器 物    | 今 国 の 展 示 品 | 備 考   |
|----|----------|--------------|-----|-----|------------|------------|-------------|-------|
| 14 | 池谷古墳     | 神戸市西区塩谷別塩谷   | 古 墳 | 後期  | ○          | 鍬谷中        | ◎           | 参考文献5 |
| 15 | 光松古墳     | 神戸市西区塩谷別塩谷   | 古 墳 | 後期  | ○          |            |             | 参考文献5 |
| 16 | 松木塙本古墳   | 神戸市西区塩谷別塩谷本  | 古 墳 | 後期  | ○          |            |             | 参考文献5 |
| 17 | 姫谷古墳     | 同 上          | 同 上 | ○   |            | 神戸市        | ◎           |       |
| 18 | 北山3号墳    | 神戸市西区塩谷別塩谷西邊 | 古 墳 | 後期  | ○          |            |             |       |
| 19 | 常本5号墳    | 神戸市西区平野相生本   | 古 墳 | 後期  | ○          |            |             |       |
| 20 | 保敷原山古墳   | 神戸市西区平野相生本   | 古 墳 | 後期  | ○          | 家          | 神戸市         | ◎     |
| 21 | 中村4号墳    | 神戸市西区塩野町中津   | 古 墳 | 後期  | ○          |            |             | 参考文献7 |
| 22 | 中村5号墳    | 同 上          | 同 上 | ○   |            | 神戸市        | ◎           | 同 上   |
| 23 | 玉屋古墳始要   | 神戸市西区玉屋台3丁目  | 古 墳 | 中期  | ○          |            |             | 参考文献4 |
| 24 | 玉屋古墳始要   | 同 上          | 同 上 | ○   |            | 明石南高       |             |       |
| 25 | 合合龜頭古墳   | 神戸市西区玉屋町也合   | 古 墳 | 後期  | ○ ○ 家 大刀、盾 | 神戸内外考古学研究所 | ◎           |       |
| 26 | 吉田古墳跡    | 神戸市西区森谷2丁目   | 古 墳 | 後期  | ○          |            |             | 参考文献3 |
| 27 | 高津原大塚2号墳 | 神戸市西区玉屋町高津原  | 古 墳 | 後期  | ○          |            | 神戸市         |       |
| 28 | 西神尾29号墳  | 神戸市西区平野町塩田   | 古 墳 | 後期  | ○          |            | 神戸市、        | ◎     |

| 番号 | 遺跡名      | 所在地           | 種類  | 時期 | 出土品 |    | 所蔵者                | 今後の展示品    | 備考     |
|----|----------|---------------|-----|----|-----|----|--------------------|-----------|--------|
|    |          |               |     |    | 円筒  | 切頭 |                    |           |        |
| 29 | 金乳山古墳    | 神戸市長田区草原池町    | 古 墓 | 中期 | ○   |    |                    |           |        |
| 30 | 神楽灘跡     | 神戸市長田区神楽町2丁目  | 聚落址 | 後期 | ○   |    | 県立歴史博物館<br>東京国立博物館 | ◎         | 参考文献1  |
| 31 | 金下山二本松古墳 | 神戸市中央区鷺鳴町     | 古 墓 | 前期 | ○   |    | 神戸市                | 神戸市       |        |
| 32 | 兎女塚古墳    | 神戸市中央区御影堂町2丁目 | 古 墓 | 前期 |     |    | 神戸市                | 神戸市       | 参考文献15 |
| 33 | 郡穴大殿遺跡   | 神戸市中央区御影町御影宮  | 聚落址 | 後期 | ○   |    | 神戸市                | 神戸市       | 参考文献12 |
| 34 | 東来女塚古墳   | 神戸市中央区住吉宮町1丁目 | 古 墓 | 前期 | ○   |    | 神戸市                | 神戸市       |        |
| 35 | 住吉宮町3号墳  | 神戸市中央区住吉宮町7丁目 | 古 墓 | 後期 | ○ ○ | 墓村 | 神戸市                | 神戸市       | 参考文献17 |
| 36 | 森北町遺跡    | 神戸市東灘区森北町4丁目  | 古 墓 | 後期 | ○   |    | 神戸市                | 神戸市       |        |
| 37 | 保久良神社境内  | 神戸市須磨区本山町北側   | 古 墓 | 中期 | ○   |    | 保久良神社              | 保久良神社     | 参考文献4  |
| 38 | 風谷古墳     | 神戸市西区風谷町長谷    | 古 墓 | 後期 | ○   |    |                    |           |        |
| 39 | 宮ノ内5号墳   | 神戸市西区伊川谷町上輪   | 古 墓 | 後期 | ○   |    |                    |           |        |
| 40 | 池ノ内5号墳   | 神戸市西区伊川谷町上輪   | 古 墓 | 後期 | ○   |    |                    |           |        |
| 41 | 神出田井向山   | 神戸市西区神出町用井    | 古 墓 | 後期 | ○   |    |                    |           |        |
| 42 | 松齋新田3号墳  | 神戸市西区平野町中津    | 古 墓 | 後期 | ○   |    |                    |           |        |
| 43 | 出合遺跡     | 神戸市西区玉津町出合    | 古 墓 | 前期 | ○ ○ |    | 神戸市考古学研究所          | 神戸市考古学研究所 | 参考文献18 |

## 参考文献

1. 喜田貞吉「武庫地方上代の遺物遺蹟」 神戸市史 別録Ⅰ 1922年
2. 直良信夫「埴輪円筒の合口棺」 考古学1—4 2—4 1930年 1931年
3. 梅原末治「垂水歌敷山古墳の調査」  
兵庫県史跡名勝天然記念物調査報告第8集 1931年
4. 本山村「本山村誌」 1953年
5. 神戸新聞社会部「祖先の足あとⅣ」 1961年
6. 神戸市教育委員会「鬼神山古墳」 1967年
7. 兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会 「中村古墳群発掘調査報告」 1969年
8. 神戸市教育委員会「天王山古墳群発掘調査概要」 1972年
9. 神戸市立考古館「兵庫の古墳」 1973年
10. 立木修「棺に利用された朝顔形埴輪」 大塚考古第12号 1974年
11. 神戸市教育委員会「史跡五色塚古墳・復元整備事業概要」 1975年
12. 神戸市教育委員会「郡家大蔵遺跡現地説明会資料」 1979年
13. 神戸市立考古館「地下にねむる神戸の歴史展」 1980年
14. 吉田片山遺跡調査団「吉田南遺跡周辺の遺跡」 1980年
15. 神戸市教育委員会「昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報」 1983年
16. 神戸市教育委員会「地下に眠る神戸の歴史展Ⅱ」 1984年
17. 神戸市教育委員会「住吉宮町遺跡第2次調査現地説明会資料」 1985年
18. 鎌木義昌 龜田修一「出合遺跡」 兵庫県埋蔵文化財調査年報 昭和57年度 1985年



古墳の形態

1. 円墳
2. 方墳
3. 前方後円墳
4. 帆立貝形古墳
5. 前方後方墳
6. 上円下方墳
7. 双方中円墳
8. 双方中方墳
9. 八角墳
10. 双円墳
11. 横穴墓
12. 地下式横穴墓
13. 四隅突出形埴塙

(東京堂出版『古墳辞典』1982年より)

